

平成25年度版 第3次熊本市環境総合計画
重点協働プロジェクトに関する
市民アンケート調査報告書

平成25年9月

<熊本市>

1. 調査概要	1
---------	---

2. アンケート調査結果	2
--------------	---

(1) 回答者の内訳	2
------------	---

(2) 調査結果	3
----------	---

■ 「ひとづくり」プロジェクトについて

1. 環境について学ぶ機会（学習会やイベント等）が増えてきたと感じますか。	3
2. この1年以内で、環境に関する学習会やイベント等に参加しましたか。	5
2-1. 問2で「参加した」と回答した場合、どのような環境に関する学習会やイベント等に参加しましたか。	7
2-2. 問2で「参加した」と回答した場合、参加したことによって、環境保全のために実践するようになった行動（活動）はありますか。また、あるとしたらどういったことですか。	10
2-3. 問2で「参加していない」と回答した場合、参加しなかった理由は何ですか。	13
3. 今後、どのような内容の学習会等に参加してみたいと思いますか。	16
4. どのような条件が整えば、より環境に関する学習会やイベント等に参加したいと思いますか。	19
5. 市民の環境保全意識を高めるために、市としてどのような取り組みを行えば効果的だと思いますか。	22

■ 「まちづくりプロジェクト」について

6. 環境保全に関わるまちづくりの活動が増えてきたと感じますか。	25
7. 日頃、地域の環境保全活動に参加していますか。	27
7-1. 問7で「参加している」と回答した場合、どのような団体の活動に参加していますか。	29
7-2. 問7で「参加している」と回答した場合、現在、地域においてどのような環境保全活動に参加していますか。	31
7-3. 問7で「参加したことはないが、今後してみたい」と回答した場合、どのような団体の活動に参加してみたいですか。	34
7-4. 「参加したことはないが、今後してみたい」と回答した場合、今後、どのような環境保全活動に参加してみたいですか。	36
7-5. 問7で「参加したことはないし、今後もしないと思わない」と回答した場合、参加したいと思わない理由は何ですか。	38
8. どのような条件が整えば、より多くの人まちづくりとしての環境保全活動に関	41

わるようになると思いますか。

9. 地域で市民活動団体や市民が環境保全活動を行う際、どのような支援が必要だと
思いますか。 . . . 44

10. 普段、環境に関する情報を何から得ていますか。 . . . 46

11. 環境に関する情報について、今後求めたいもの（不足しているもの）は何です
か。 . . . 48

■ 「生物多様性」について

12. 「生物多様性」について知っていますか。 . . . 51

3. 調査結果総括 53

4. 参考資料（調査票） 56

1. 調査概要

■調査目的

平成23年3月に策定した第3次熊本市環境総合計画では「未来へつなぎ、世界に誇れる環境文化都市」を目指すべき都市像として掲げ、それを実現するために共通して取り組む事項として「環境教育によるひとづくり」、「協働によるまちづくり」を重点協働プロジェクトとして位置づけている。また、本計画では、プロジェクトの実施状況や進捗状況を、市民意識調査等により毎年度点検評価し、その結果を計画実施体制等に反映し、着実な推進を図ることとしている。

本調査は、市民の日頃の環境保全行動・活動の取り組み状況や、それに対するニーズなどを調査し、重点協働プロジェクトの進捗状況の把握及び、新たに実施する施策の方向性を検討する資料とするため実施したものである。

■調査対象

市民：3,000人（住民基本台帳より満20歳以上89歳以下の市民を無作為抽出）

■調査方法

アンケート調査票の郵送配布・回収

■調査期間

平成24年10月～11月

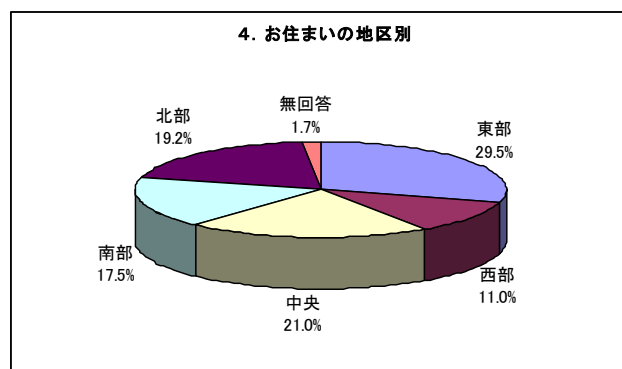
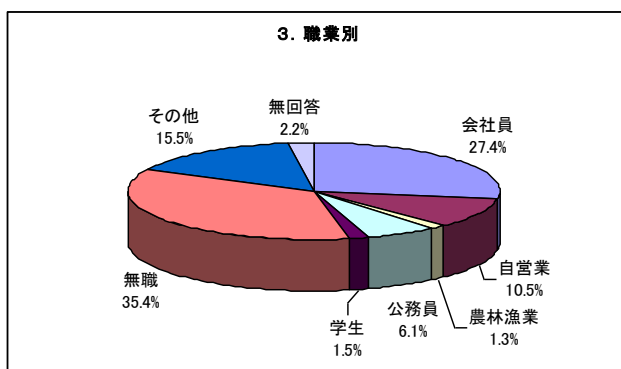
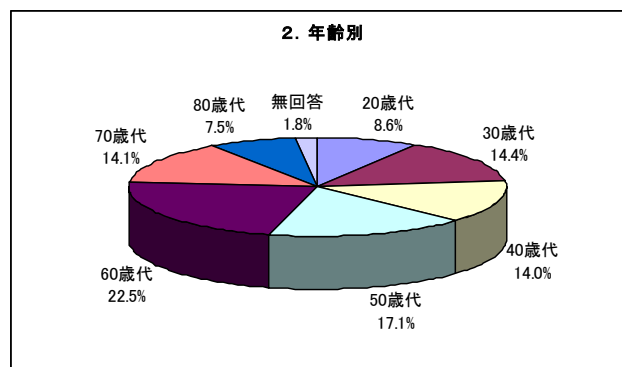
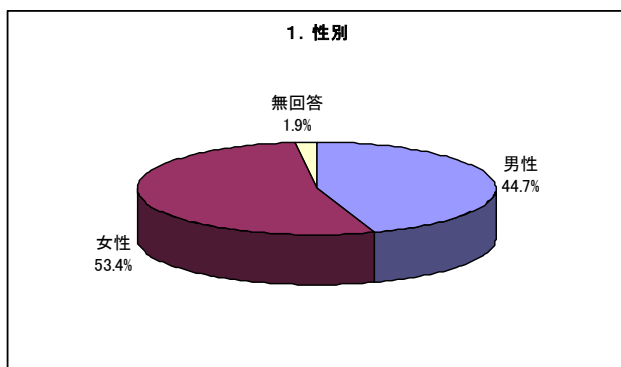
■有効回収数（有効回収率）

1,264人（42.1％）

※回答結果を分析するに当たって、属性別で回答総数が10未満のものは除外した。

2. アンケート調査結果

(1) 回答者の内訳



※居住地区

回答欄	該当地区（小学校区域）
1 東部	画凶、健軍、秋津、泉ヶ丘、若葉、尾ノ上、西原、託麻東、託麻西、託麻北、桜木、東町、月出、健軍東、託麻南、山ノ内、長嶺、桜木東
2 西部	古町、春日、城西、花園、池田、白坪、高橋、池上、城山、松尾東、松尾西、松尾北、小島、中島、芳野、河内
3 中央	壺川、碩台、白川、城東、慶徳、一新、五福、向山、黒髪、大江、本荘、春竹、出水、砂取、託麻原、帯山、白山、帯山西、出水南
4 南部	日吉、川尻、力合、御幸、田迎、城南、田迎南、飽田東、飽田南、飽田西、中緑、銭塘、奥古閑、川口、日吉東、富合、杉上、隈庄、豊田
5 北部	清水、龍田、城北、高平台、楠、麻生田、武蔵、弓削、楡木、川上、西里、北部東、植木、山本、田原、菱形、桜井、山東、田底、吉松

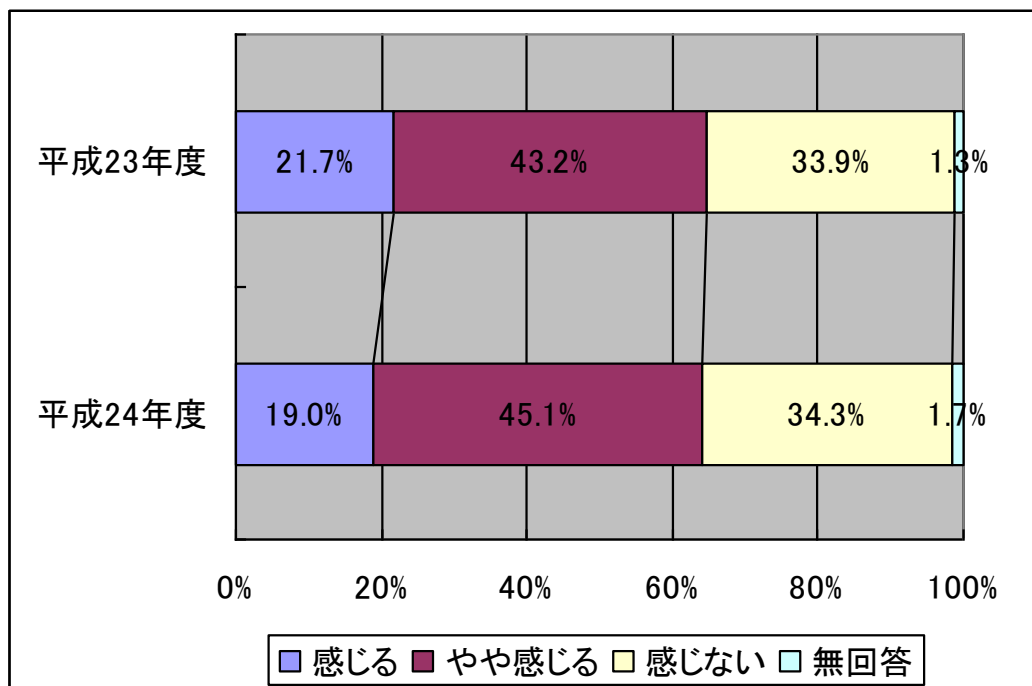
(2)調査結果

問1～5「ひとづくりプロジェクト」について

問1. 環境について学ぶ機会(学習会やイベント等)が増えてきたと感じますか。(1つだけ)

【全体結果】

- ・「やや感じる」の割合が 45.1%と最も高く、次いで「感じる」が 34.3%、「感じる」が 19.0%となっている。
- ・「やや感じる」と「感じる」を合わせた割合は 64.1%で、前回調査と比較すると、0.8%低下している。



【男女別】

- ・「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合は、男性は 60.9%、女性は 66.4%と、女性の方が高くなっている。

【年代別】

- ・「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合は、50歳代が72.7%と最も高く、次いで80歳代(67.4%)、60歳代(67.3%)となっている。
- ・20歳代では、「感じない」の割合が 56.0%と、他の年代と比べると高くなっている。

【職業別】

- ・「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合は、そのほか73.5%と最も高く、次いで公務員(70.1%)、自営業(63.9%)となっている。

【地区別】

・「感じる」と「やや感じる」を合わせた割合は、西部が 68.3%と最も高く、次いで北部（67.9%）、中央（64.7%）となっている。

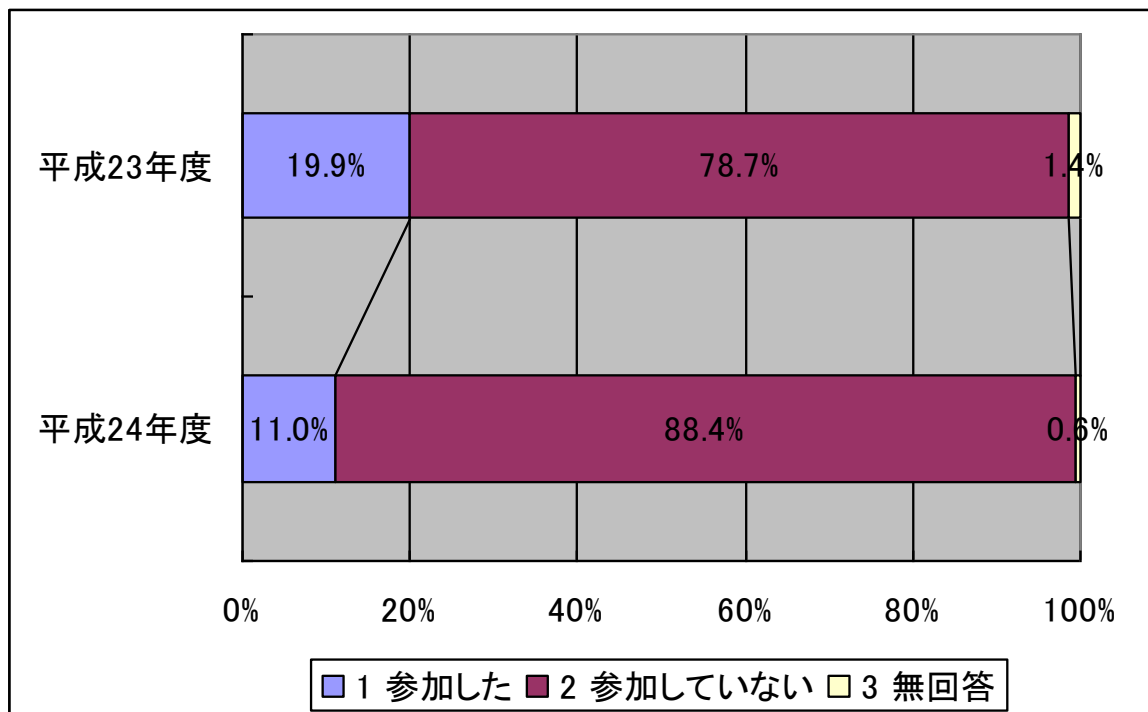
■回答者の属性別にみた「環境について学ぶ機会（学習会やイベント等）が増えてきたと感じますか。（1つだけ）」

	合計	感じる	やや感じる	感じない	無回答
全体	1,264	19.0%	45.1%	34.3%	1.7%
性別					
男性	565	18.8%	42.1%	37.7%	1.4%
女性	675	19.1%	47.3%	31.7%	1.9%
年代別					
20歳代	109	10.1%	33.9%	56.0%	0.0%
30歳代	182	15.4%	39.6%	44.5%	0.5%
40歳代	177	18.6%	47.5%	33.9%	0.0%
50歳代	216	22.2%	50.5%	27.3%	0.0%
60歳代	284	20.1%	47.2%	30.6%	2.1%
70歳代	178	21.9%	43.8%	29.2%	5.1%
80歳代	95	21.1%	46.3%	27.4%	5.3%
職業別					
会社員	346	17.9%	41.3%	40.2%	0.6%
自営業	133	18.0%	45.9%	34.6%	1.5%
農林漁業	17	5.9%	47.1%	47.1%	0.0%
公務員	77	26.0%	44.2%	29.9%	0.0%
学生	19	15.8%	36.8%	47.4%	0.0%
無職	448	17.6%	45.3%	33.9%	3.1%
その他	196	24.0%	49.5%	25.0%	1.5%
地区別					
東部	373	20.4%	44.2%	33.0%	2.4%
西部	139	25.9%	42.4%	30.9%	0.7%
中央	266	18.4%	46.2%	33.8%	1.5%
南部	221	15.4%	40.7%	41.6%	2.3%
北部	243	16.9%	51.0%	31.3%	0.8%

問2. この 1 年以内で、環境に関する学習会やイベント等に参加しましたか。(1つだけ)

【全体結果】

・「参加した」割合は 11.0%で、前回調査と比較すると、8.9%低下している。



【男女別】

・性別による差はあまり見られない。

【年代別】

・「参加した」割合は、80 歳代が 14.7%と最も高く、次いで 60 歳代(14.4%)、40 歳代(12.4%)となっている。

・20 歳代と 30 歳代の比較的若い世代では、「参加した」割合が 1 割未満と、他の年代と比べると低くなっている。

【職業別】

・「参加した」割合は、農林漁業が 23.5%と最も高く、次いで自営業(12.8%)、公務員(11.7%)となっている。

【地区別】

・地区別による差はあまり見られない。

■回答者の属性別にみた「この 1 年以内で、環境に関する学習会やイベント等に参加しましたか。(1つだけ)」

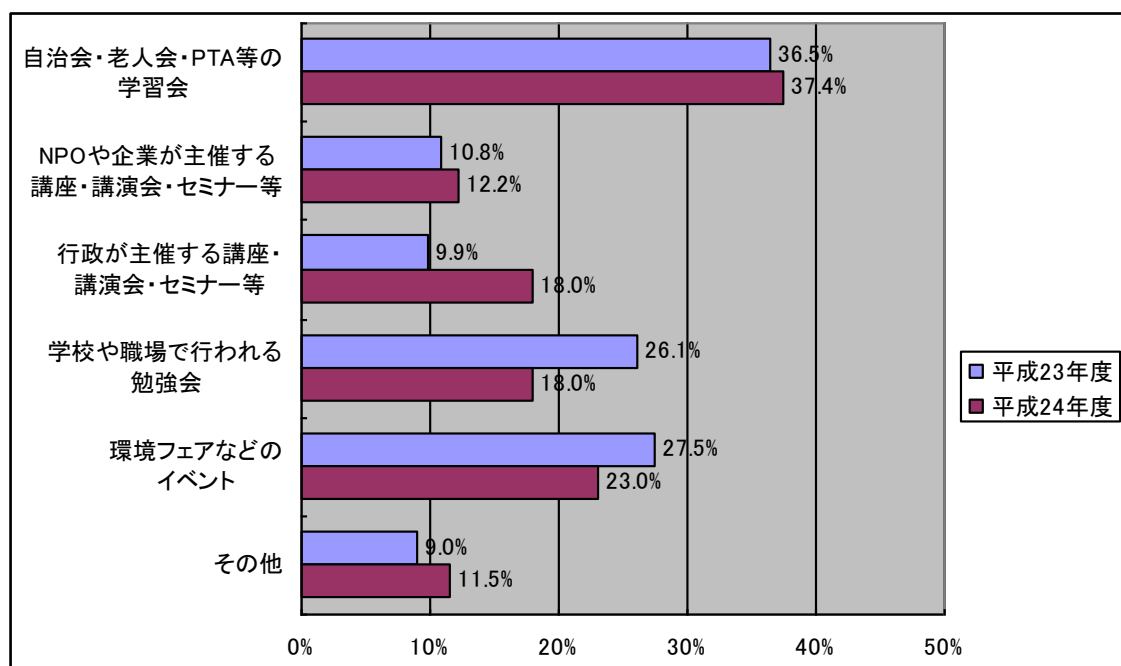
	合計	参加した	参加していない	無回答
全体	1,264	11.0%	88.4%	0.6%
性別				
男性	565	11.5%	87.8%	0.7%
女性	675	10.4%	89.2%	0.4%
年代別				
20歳代	109	4.6%	95.4%	4.6%
30歳代	182	6.6%	93.4%	0.0%
40歳代	177	12.4%	87.0%	0.6%
50歳代	216	11.1%	88.9%	0.0%
60歳代	284	14.4%	14.4%	14.4%
70歳代	178	10.1%	88.8%	1.1%
80歳代	95	14.7%	82.1%	3.2%
職業別				
会社員	346	9.8%	90.2%	0.0%
自営業	133	12.8%	87.2%	0.0%
農林漁業	17	23.5%	76.5%	0.0%
公務員	77	11.7%	88.3%	0.0%
学生	19	5.3%	94.7%	0.0%
無職	448	11.6%	87.1%	1.3%
その他	196	9.2%	90.3%	0.5%
地区別				
東部	373	11.3%	88.5%	0.3%
西部	139	7.9%	91.4%	0.7%
中央	266	11.7%	87.2%	1.1%
南部	221	12.2%	87.3%	0.5%
北部	243	10.3%	89.3%	0.4%

問2-1. 問2で「参加した」と答えられた方にお尋ねします。

この1年以内で、どのような、環境に関する学習会やイベント等に参加しましたか。
(複数回答可)

【全体結果】

- ・問2で「参加した」と回答したうち、「自治会・老人会・PTA等の学習会」の割合が37.4%と最も高く、次いで「環境フェアなどのイベント」(23.0%)、「行政が主催する講座・講演会・セミナー等」(18.0%)となっている。
- ・「行政が主催する講座・講演会・セミナー等」の割合は、前回調査では5位だったが、今回調査では3位に上がっている。



【男女別】

- ・男性では「NPO や企業が主催する講座・講演会・セミナー等」の割合が20.0%と、女性と比較して14.3%高くなっている。また、「学校や職場で行われる勉強会」の割合が26.2%と、女性と比較して14.8%高くなっている。

【年代別】

- ・40歳代と50歳代では「学校や職場で行われる勉強会」の割合がそれぞれ31.8%、29.2%と、他の年代と比較して高くなっている。また、40歳代では「環境フェアなどのイベント」の割合が45.5%と、他の年代と比較して高くなっている。
- ・70歳代と80歳代では「自治会・老人会・PTA等の学習会」の割合がそれぞれ55.6%、71.4%と、他の年代と比較して高くなっている。

【職業別】

- ・会社員では「学校や職場で行われる勉強会」の割合が 38.2%と、他の職業と比較して高くなっている。
- ・自営業と無職では「自治会・老人会・PTA 等の学習会」の割合がそれぞれ 41.2%、61.5%と、他の職業と比較して高くなっている。

【地区別】

- ・西部では「NPOや企業が主催する講座・講演会・セミナー等」(27.3%)、「行政が主催する講座・講演会・セミナー等」(36.4%)、「環境フェアなどのイベント」(54.5%)の割合が、他の地区と比較して高くなっている。
- ・北部では「自治会・老人会・PTA等の学習会」の割合が 64.0%と、他の地区と比較して高くなっている。

■回答者の属性別にみた「問2で「参加した」と回答した場合、どのような学習会やイベント等に参加しましたか。(複数回答可)」

	合計	P T A 等 の 学 習 会 ・ 老 人 会 ・ 学 習 会	会 催 す る セ ミ ナ ー 等 の 講 座 ・ 講 演 会 ・ 講 座 主 催 等	ナ 座 行 政 が 主 催 す る 講 座 ・ 講 演 会 ・ セ ミ ナ ー 等	れ 学 校 や 職 場 で 行 わ れ る 勉 強 会	イ 環 境 フ ェ ア な ど の ベ ン ト	そ の 他
全体	139	37.4%	12.2%	18.0%	18.0%	23.0%	11.5%
性別							
男性	65	36.9%	20.0%	18.5%	26.2%	21.5%	4.6%
女性	70	37.1%	5.7%	15.7%	11.4%	24.3%	18.6%
年代別							
20歳代	5	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	80.0%	20.0%
30歳代	12	25.0%	8.3%	25.0%	8.3%	33.3%	8.3%
40歳代	22	22.7%	13.6%	4.5%	31.8%	45.5%	9.1%
50歳代	24	29.2%	16.7%	20.8%	29.2%	20.8%	16.7%
60歳代	41	36.6%	14.6%	7.3%	19.5%	14.6%	14.6%
70歳代	18	55.6%	5.6%	33.3%	0.0%	5.6%	5.6%
80歳代	14	71.4%	7.1%	28.6%	0.0%	7.1%	7.1%
職業別							
会社員	34	20.6%	17.6%	17.6%	38.2%	32.4%	5.9%
自営業	17	41.2%	29.4%	11.8%	17.6%	23.5%	11.8%
農林漁業	4	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公務員	9	11.1%	0.0%	22.2%	22.2%	33.3%	22.2%
学生	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
無職	52	61.5%	5.8%	19.2%	5.8%	13.5%	13.5%
その他	18	11.1%	16.7%	16.7%	16.7%	27.8%	11.1%
地区別							
東部	42	31.0%	11.9%	21.4%	21.4%	19.0%	4.8%
西部	11	45.5%	27.3%	36.4%	9.1%	54.5%	9.1%
中央	31	22.6%	12.9%	12.9%	22.6%	29.0%	19.4%
南部	27	37.0%	3.7%	3.7%	22.2%	11.1%	22.2%
北部	25	64.0%	16.0%	20.0%	8.0%	20.0%	4.0%

◆ 参考 ◆

○「その他」のイベント等

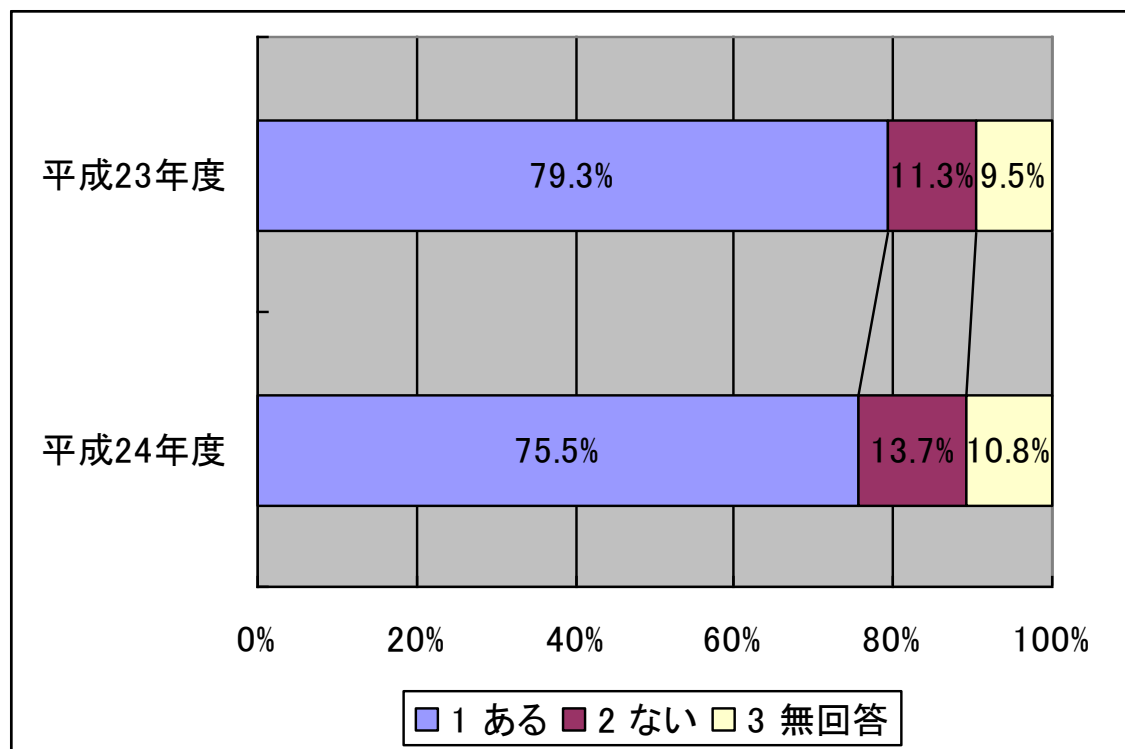
- ・カプセルによる大気汚染の測定
- ・所属しているボランティア団体のイベント
- ・植林、清掃、小学生対象環境セミナー
- ・職場でのボランティア活動
- ・企業の清掃ボランティア活動
- ・EM菌作り(ぼかし)
- ・放射性物質についてのセミナー
- ・町内老人で集う学習会(講演会)
- ・キャンドルナイト
- ・焼却工場の見学
- ・自主グループ活動での勉強会
- ・脱原発を考える講演会

問2-2. 問2で「参加した」と答えられた方にお尋ねします。

参加したことによって、環境保全のために実践するようになった行動(活動)はありますか。(1つだけ)

【全体結果】

・問2で「参加した」と回答したうち、「ある」の割合は 75.5%で、前回調査と比較すると、3.8%低下している。



【男女別】

・「ある」の割合は、男性が 78.5%、女性が 74.3%と、男性のほうがやや高くなっている。

【年代別】

・「ある」の割合は、80 歳代が 78.6%と最も高く、次いで 40 歳代(77.3%)、60 歳代(75.6%)となっている。

【職業別】

・「ある」の割合は、自営業が 82.4%と最も高く、次いでその他(77.8%)、無職(76.9%)となっている。

【地区別】

・「ある」の割合は、南部が 85.2%と最も高く、次いで西部(81.8%)、北部(76.0%)とな

っている。

■回答者の属性別にみた「問2で「参加した」と回答した場合、参加したことによって、環境保全のために実践するようになった行動(活動)はありますか。(1つだけ)」

	合計	ある	ない	無回答
全体	139	75.5%	13.7%	10.8%
性別				
男性	65	78.5%	13.8%	7.7%
女性	70	74.3%	12.9%	12.9%
年代別				
20歳代	5	100.0%	0.0%	0.0%
30歳代	12	75.0%	25.0%	0.0%
40歳代	22	77.3%	18.2%	4.5%
50歳代	24	75.0%	16.7%	8.3%
60歳代	41	75.6%	9.8%	14.6%
70歳代	18	66.7%	16.7%	16.7%
80歳代	14	78.6%	0.0%	21.4%
職業別				
会社員	34	67.6%	23.5%	8.8%
自営業	17	82.4%	0.0%	17.6%
農林漁業	4	75.0%	0.0%	25.0%
公務員	9	88.9%	11.1%	0.0%
学生	1	100.0%	0.0%	0.0%
無職	52	76.9%	11.5%	11.5%
その他	18	77.8%	11.1%	11.1%
地区別				
東部	42	73.8%	11.9%	14.3%
西部	11	81.8%	9.1%	9.1%
中央	31	67.7%	25.8%	6.5%
南部	27	85.2%	7.4%	7.4%
北部	25	76.0%	8.0%	16.0%

◆ 参考 ◆

○実践している内容

- ・廃油の回収
- ・節電
- ・エコバッグの持参
- ・緑のカーテン
- ・地域の公園の清掃活動
- ・ゴミの分別、リサイクルの徹底
- ・河川の清掃作業に参加して、汚れがひどい事が判った。河川を汚さないよう気をつけている

・温暖化対策・ダムの役目・動物の住み家としての田んぼを増やすために「米」をたくさん消費する努力をしている

- ・町内の道路整備
- ・ゴミステーションの管理等
- ・太陽光発電システムの設置
- ・水道の蛇口をこまめに閉める
- ・物づくりの体験学習を行い、子どもたちへ環境の大切さを指導する
- ・食べ物には国産・熊本産を選ぶようになった
- ・ダンボール箱で生ごみの堆肥作り
- ・自動車等、ガソリンをあまり使用しない
- ・不要なものは買わない、持たない
- ・EMダンゴを作って町内の用水路に投入し水質の浄化に取り組む
- ・薪ストーブの導入。町屋に住む
- ・環境保全に配慮している商品を買うようにしている。例：非塩ビ、リユース瓶、地産地消など
- ・ポイ捨て禁止の立て看板設置
- ・ボランティア活動への参加
- ・生ゴミ処理機の使用
- ・車の燃費改善
- ・熊本城清掃ボランティア
- ・マイ箸の持参
- ・植林、下草刈り
- ・水検定
- ・大気汚染の測定活動
- ・エコに関する勉強会の開催

○「ない」と回答した場合、実践していない理由

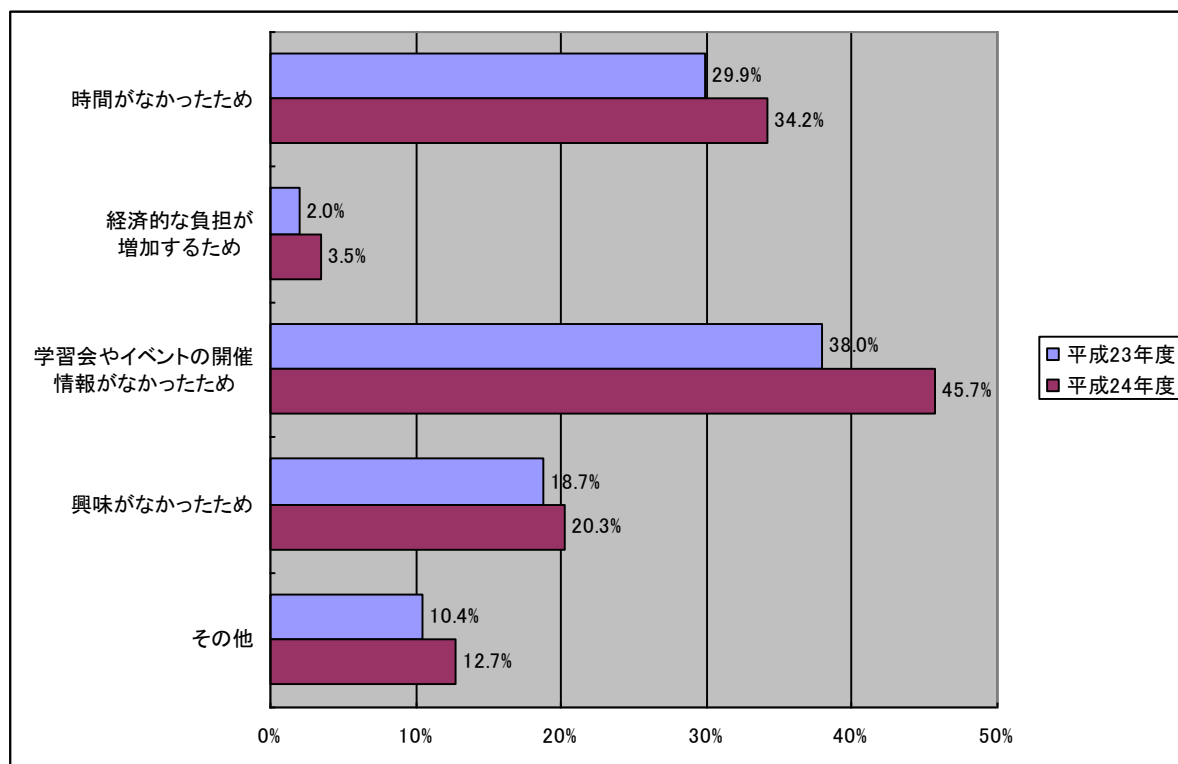
- ・興味がなかったため
- ・参加したセミナーの取り組むテーマが広すぎて、具体的に身近に取り組める内容がイメージできていないから
- ・仕事が忙しいため
- ・放射能汚染についてだったので、あまり熊本では繋がりがなく、いつもの生活で良いと思っているため
- ・今まで出来ることはやっているため
- ・体の具合が悪いため
- ・機会がないため
- ・高齢のため
- ・何をしてもよいかわからないため

問2-3. 問2で「参加していない」と答えられた方にお尋ねします。

参加しなかった理由は何ですか。(複数回答可)

【全体結果】

- ・問2で「参加」と回答したうち、「学習会やイベントの開催情報がなかったため」が45.7%と最も高く、次いで「時間がなかったため」(34.2%)、「興味がなかったため」(20.3%)となっている。
- ・前回調査と比較すると、すべての項目で回答割合が高くなっているが、順位に変化は見られない。



【男女別】

- ・男性では「学習会やイベントの開催情報がなかったため」の割合が50.0%と、女性と比較して7.8%高くなっている。
- ・女性では「時間がなかったため」の割合が39.2%と、男性と比較して11.0%高くなっている。

【年代別】

- ・40歳代以外の全ての年代で、「学習会やイベントの開催情報がなかったため」の割合が最も高くなっている。
- ・40歳代では「時間がなかったため」の割合が43.5%と最も高くなっている。

【職業別】

・公務員では、「時間がなかったため」の割合が 51.5%と、他の職業と比較して高くなっている。

・農林漁業と学生では「学習会やイベントの開催情報がなかったため」の割合がそれぞれ 69.2%、72.2%と、他の職業と比較して高くなっている。

【地区別】

・地区別による差はあまり見られない。

■回答者の属性別にみた「問2で「参加していない」と回答した場合、参加しなかった理由は何ですか。(複数回答可)」

	合計	時間がなかった	経済的負担が増	学習会やイベントの開催情報がなかった	興味なかった	その他
全体	1,118	34.2%	3.5%	45.7%	20.3%	12.7%
性別						
男性	496	28.2%	2.4%	50.0%	22.8%	10.7%
女性	602	39.2%	4.3%	42.2%	18.6%	14.3%
年代別						
20歳代	104	37.5%	1.9%	48.1%	29.8%	10.6%
30歳代	170	40.6%	3.5%	54.7%	22.4%	7.1%
40歳代	154	43.5%	3.2%	39.6%	28.6%	5.2%
50歳代	192	42.7%	4.7%	43.8%	17.2%	10.4%
60歳代	242	31.0%	5.8%	47.9%	14.0%	12.4%
70歳代	158	26.6%	1.3%	40.5%	15.8%	20.3%
80歳代	78	3.8%	0.0%	41.0%	24.4%	33.3%
職業別						
会社員	312	42.0%	2.9%	47.4%	24.7%	5.1%
自営業	116	42.2%	2.6%	42.2%	19.8%	9.5%
農林漁業	13	15.4%	0.0%	69.2%	15.4%	7.7%
公務員	68	51.5%	0.0%	41.2%	23.5%	5.9%
学生	18	44.4%	0.0%	72.2%	5.6%	16.7%
無職	390	20.3%	4.1%	45.6%	19.5%	18.5%
その他	177	40.1%	5.1%	42.4%	16.4%	17.5%
地区別						
東部	330	31.2%	4.2%	42.4%	24.2%	14.8%
西部	127	35.4%	3.1%	43.3%	11.0%	15.7%
中央	232	39.2%	2.6%	47.4%	19.0%	12.5%
南部	193	35.2%	5.2%	46.6%	22.8%	10.4%
北部	217	32.3%	1.8%	49.8%	18.4%	11.1%

◆ 参考 ◆

○その他の理由

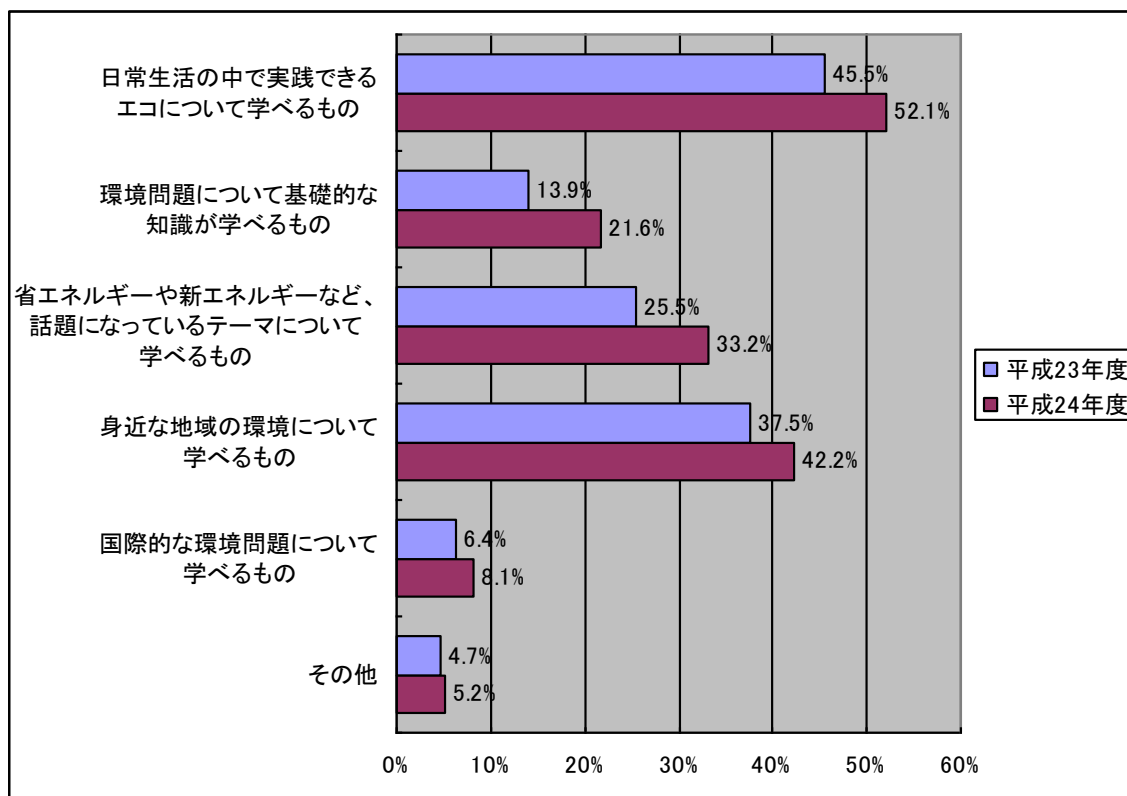
- ・高齢のため
- ・体調不良のため
- ・家族の世話(介護、幼児など)のため

- ・開催場所までの交通の便が悪いため
- ・もう十分知識があるので、参加しても新しい情報が得られないため
- ・既に自分で行動しているため
- ・一緒に参加する人がいないため
- ・関心をよぶ内容のものが無かったため
- ・本や新聞、テレビなどから情報を得ているため
- ・仕事の都合で参加しづらいため
- ・外出してまで参加したくないため
- ・個々が意識を持って実践すれば、イベントや学習会などの開催まで必要はないと思っているため
- ・せっかく学習しても実際に活用する自信がない

問3. 今後、どのような内容の学習会等に参加してみたいと思いますか。(複数回答可)

【全体結果】

- ・「日常生活の中で実践できるエコについて学べるもの」の割合が52.1%と最も高く、次いで「身近な地域の環境について学べるもの」(42.2%)、「省エネルギーや新エネルギーなど、話題になっているテーマについて学べるもの」(33.2%)となっている。
- ・前回調査と比較すると、すべての項目で回答割合が高くなっているが、順位に変化は見られない。



【男女別】

- ・男性では「身近な地域の環境について学べるもの」の割合が 46.0%と、女性と比較して 7.2%高くなっている。
- ・女性では「日常生活の中で実践できるエコについて学べるもの」の割合が 59.3%と、男性と比較して 15.6% 高くなっている。

【年代別】

- ・20 歳代では「国際的な環境問題について学べるもの」の割合が 19.3%と、他の年代と比較して高くなっている。
- ・30 歳代と 40 歳代では「日常生活の中で実践できるエコについて学べるもの」の割

合が、それぞれ 64.3%、61.0%と、他の年代と比較して高くなっている。

・60歳代と70歳代及び80歳代では「身近な地域の環境について学べるもの」の割合が、それぞれ 46.8%、48.9%、45.3%と、他の年代と比較して高くなっている。

【職業別】

・農林漁業では「身近な地域の環境について学べるもの」の割合が 70.6%と、他の職業と比較して高くなっている。

【地区別】

・西部では「身近な地域の環境について学べるもの」の割合が最も高く、それ以外の地区では「日常生活の中で実践できるエコに関するもの」の割合が最も高くなっている。

■回答者の属性別にみた「今後、どのような内容の学習会等に参加してみたいと思いますか。(複数回答可)」

	合計	日常生活の中で実践できるもの	環境問題に関する知識が得られるもの	エネルギーに関するもの	身近な地域の環境	国際的な環境問題	その他
全体	1,264	52.1%	21.6%	33.2%	42.2%	8.1%	5.2%
性別							
男性	565	43.7%	20.7%	37.0%	46.0%	8.7%	5.0%
女性	675	59.3%	22.8%	30.5%	38.8%	8.0%	5.3%
年代別							
20歳代	109	50.5%	24.8%	39.4%	37.6%	19.3%	4.6%
30歳代	182	64.3%	24.2%	39.0%	39.6%	11.5%	3.8%
40歳代	177	61.0%	23.7%	37.3%	34.5%	10.2%	4.0%
50歳代	216	54.2%	23.6%	34.3%	38.9%	6.5%	3.7%
60歳代	284	47.9%	25.0%	33.1%	46.8%	4.2%	3.2%
70歳代	178	43.8%	14.6%	25.8%	48.9%	5.6%	9.0%
80歳代	95	37.9%	10.5%	22.1%	45.3%	6.3%	11.6%
職業別							
会社員	346	52.3%	26.9%	39.3%	36.4%	9.0%	4.3%
自営業	133	42.9%	20.3%	27.8%	39.1%	7.5%	4.5%
農林漁業	17	47.1%	29.4%	47.1%	70.6%	0.0%	0.0%
公務員	77	57.1%	20.8%	44.2%	40.3%	14.3%	1.3%
学生	19	52.6%	36.8%	36.8%	36.8%	36.8%	5.3%
無職	448	48.9%	17.9%	27.9%	46.9%	6.5%	7.1%
その他	196	63.3%	19.9%	33.2%	40.8%	7.1%	4.1%
地区別							
東部	373	52.8%	20.6%	36.7%	39.4%	7.8%	4.0%
西部	139	46.8%	23.0%	31.7%	48.2%	8.6%	5.8%
中央	266	51.5%	23.7%	35.0%	42.1%	9.0%	7.9%
南部	221	52.5%	24.4%	31.7%	46.6%	6.8%	3.6%
北部	243	54.3%	18.9%	29.2%	39.5%	9.5%	4.9%

◆ 参考 ◆

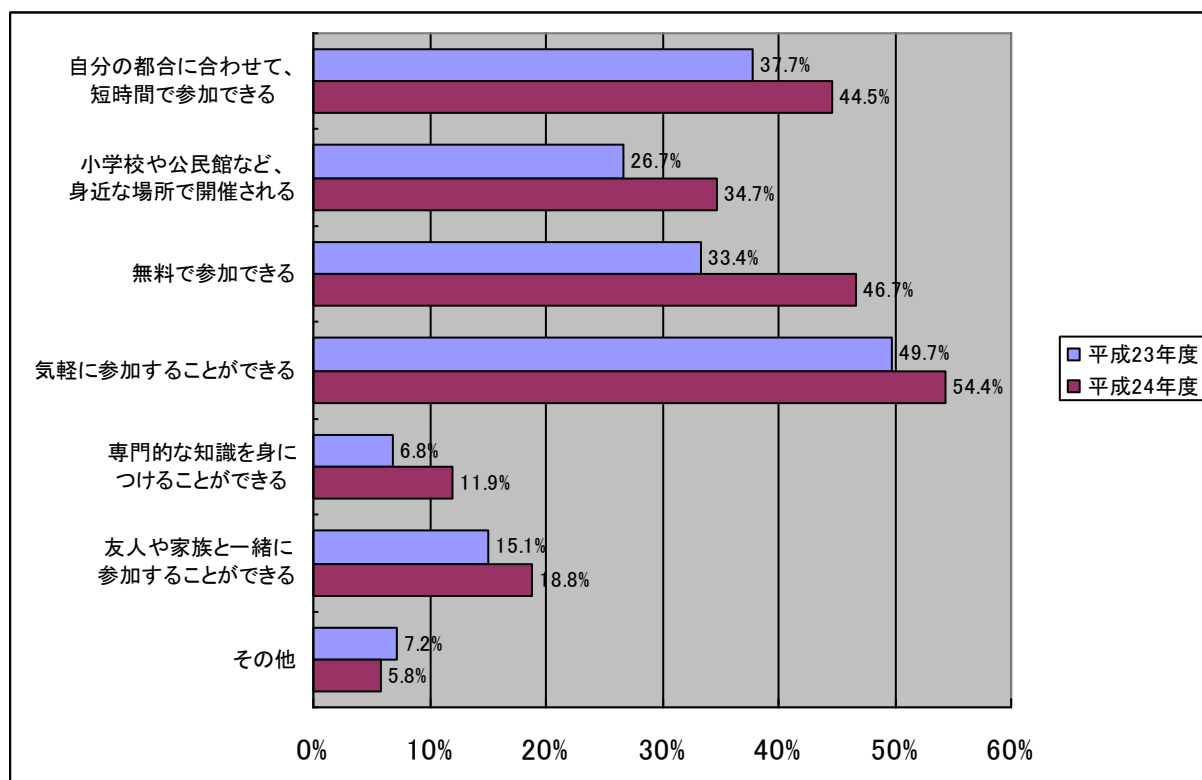
○その他の内容

- ・プラスチックゴミが、どこに運ばれているのか、どの程度の回収になっているのかなど
- ・年々変わってゆく正しい知識を身につけさせてくれるもの
- ・太陽光パネルについてなど
- ・エコがなぜ大切なのか、必要性が学べるもの
- ・水の事について(汚染)
- ・洗剤などがどれほど悪影響なのか。浄化するのにどれだけ大変か
- ・なぜこういう取り組みが必要か説明会などのイベント
- ・放射能について
- ・原発問題について
- ・様々な環境保全の取り組みについての多角的な評価を学べるもの

問4. どのような条件が整えば、より環境に関する学習会やイベント等に参加したいと思いますか。(複数回答可)

【全体結果】

- ・「気軽に参加することができる」の割合が 54.4%と最も高く、次いで「無料で参加できる」(46.7%)、「自分の都合に合わせて、短時間で参加できる」(44.5%)となっている。
- ・「無料で参加できる」の割合は、前回調査では3位だったが、今回調査では2位に上がっている。



【男女別】

- ・性別による差はあまり見られない。

【年代別】

- ・比較的若い年代ほど「自分の都合に合わせて、短時間で参加できる」と回答した割合が高くなっている。
- ・30 歳代では「無料で参加できる」の割合が 69.2%と、他の年代と比較して高くなっている。

【職業別】

- ・学生では「自分の都合に合わせて、短時間で参加できる」と「無料で参加できる」がそれぞれ 78.9%と、他の職業と比較して高くなっている。

【地区別】

・地区別による差はあまり見られない。

■回答者の属性別にみた「どのような条件が整えば、より環境に関する学習会やイベント等に参加したいと思いますか。(複数回答可)」

	合計	加せ で 自 分 の 短 時 間 で 合 わ せ ら れ る	開 催 さ れ る 場 所 で な い	ど 小 学 校 や 公 民 館 な ど	無 料 で 参 加 で き る	と 気 軽 に 参 加 す る こ と が で き る	き る 専 門 的 な 知 識 が 身 に あ る	で に 友 人 や 家 族 と 一 緒 に 参 加 す る こ と が で き る	そ の 他
全体	1,264	44.5%	34.7%	46.7%	54.4%	11.9%	18.8%	5.8%	
性別									
男性	565	41.1%	34.2%	43.9%	53.6%	14.7%	16.8%	5.7%	
女性	675	47.9%	35.4%	49.8%	55.9%	9.6%	20.7%	5.8%	
年代別									
20歳代	109	57.8%	25.7%	56.0%	51.4%	22.0%	24.8%	11.0%	
30歳代	182	54.4%	31.3%	69.2%	49.5%	15.4%	30.8%	8.2%	
40歳代	177	52.5%	36.7%	60.5%	61.6%	10.7%	21.5%	3.4%	
50歳代	216	44.9%	35.2%	44.4%	56.5%	15.3%	15.3%	6.0%	
60歳代	284	38.0%	37.0%	40.1%	60.9%	8.1%	15.5%	2.8%	
70歳代	178	36.5%	39.9%	33.7%	52.8%	9.0%	13.5%	6.2%	
80歳代	95	31.6%	30.5%	18.9%	38.9%	5.3%	12.6%	5.3%	
職業別									
会社員	346	49.1%	26.9%	54.9%	54.6%	15.6%	25.7%	5.5%	
自営業	133	39.8%	27.8%	37.6%	48.9%	16.5%	11.3%	6.0%	
農林漁業	17	41.2%	47.1%	35.3%	52.9%	17.6%	0.0%	0.0%	
公務員	77	58.4%	26.0%	42.9%	50.6%	10.4%	15.6%	6.5%	
学生	19	78.9%	31.6%	78.9%	47.4%	15.8%	26.3%	0.0%	
無職	448	36.6%	42.2%	40.2%	55.1%	7.4%	15.2%	6.0%	
その他	196	50.0%	39.8%	54.6%	60.7%	12.2%	23.5%	6.1%	
地区別									
東部	373	41.3%	35.9%	49.3%	53.9%	13.7%	19.0%	5.4%	
西部	139	38.1%	42.4%	46.8%	48.9%	12.2%	21.6%	5.0%	
中央	266	49.6%	28.9%	45.5%	59.8%	13.2%	13.9%	8.3%	
南部	221	47.1%	32.6%	48.9%	49.8%	12.2%	21.3%	5.4%	
北部	243	46.9%	37.0%	43.6%	58.8%	7.4%	20.6%	4.5%	

◆ 参考 ◆

○その他の内容

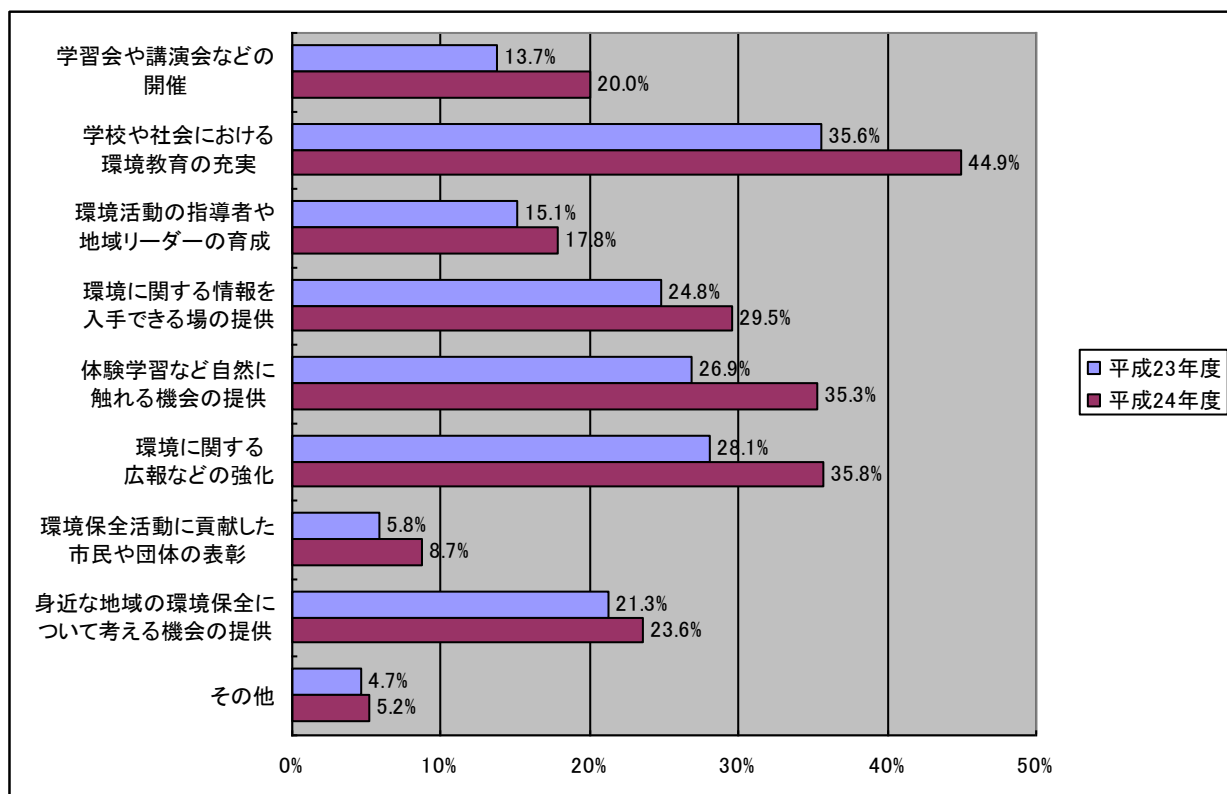
- ・外出しないで学習できること
- ・テレビやインターネット、スマホで参加できること
- ・無料で子どもを預かってくれること
- ・デイサービスなどの施設で開催すること
- ・内容が講演等と受身だけのものではなく楽しみのある参加型で、ためになるもの
- ・くまモンがくること
- ・大型ショッピングモールで土日開催されること
- ・何かもらえること

- ・土日祝日で開催されること
- ・具体的に市なり行政が取り組むべき政策なり、当方から提案させ議論させてくれる場であること
- ・演説等みたいに野外での説明
- ・小さい子どもも参加できること
- ・出席・参加証明の発行、職場へのアピール要素となること
- ・ポイント制が導入されること
- ・バリアフリーが整っている場所で開催されること
- ・参加しやすい身近な場所で開催されること
- ・短時間で立ち寄れていつでも学べるプログラムがあること。この日、この時間という限定でなく、1週間
くらいの開催で時間帯もある程度確保されていること
- ・子どもが楽しめること
- ・出版物などで学習できること

問5. 市民の環境保全意識を高めるために、市としてどのような取り組みを行えば効果的だと思いますか。(複数回答可)

【全体結果】

- ・「学校や社会における環境教育の充実」の割合が 44.9%と最も高く、次いで「環境に関する広報などの強化」(35.8%)、「体験学習など自然に触れる機会の提供」(35.3%)となっている。
- ・前回調査と比較すると、すべての項目で回答割合が高くなっているが、順位に大きな変化は見られない。



【男女別】

- ・男性では「環境に関する広報などの強化」の割合が 39.6%と、女性と比較して 6.7%高くなっている。
- ・女性では「体験学習など自然に触れる機会の提供」の割合が 39.3%と、男性と比較して 8.1% 高くなっている。

【年代別】

- ・20 歳代では「環境保全活動に貢献した市民や団体の表彰」の割合が 22.9%と、他の年代と比較して高くなっている。

・30歳代では「体験学習など自然に触れる機会の提供」の割合が53.3%と、他の年代と比較して高くなっている。

・60歳代では「身近な地域の環境保全について考える機会の提供」の割合が35.6%と、他の年代と比較して高くなっている。

【職業別】

・学生では「学校や社会における環境教育の充実」が78.9%と、他の職業と比較して高くなっている。

・農林漁業では「身近な地域の環境保全について考える機会の提供」が52.9%と、他の職業と比較して高くなっている。

【地区別】

・地区別による差はあまり見られない。

■回答者の属性別にみた「市民の環境保全意識を高めるため、市としてどのような取り組みを行えば効果的だと思いますか。(複数回答可)」

	合計	学習会や講演会など	学校や社会における充実	地域活動の指導者	環境活動の啓蒙	環境に携わる市民の啓蒙	体験学習など自然に触れる機会の提供	環境に関する広報	環境保全活動への参加	身近な地域の環境保全	その他
全体	1,264	20.0%	44.9%	17.8%	29.5%	35.3%	35.8%	8.7%	23.6%	5.2%	
性別											
男性	565	20.5%	42.3%	18.2%	28.1%	31.2%	39.6%	10.3%	24.8%	5.8%	
女性	675	19.7%	47.1%	17.3%	31.0%	39.3%	32.9%	7.3%	22.7%	4.9%	
年代別											
20歳代	109	10.1%	56.9%	13.8%	33.0%	45.0%	29.4%	22.9%	13.8%	7.3%	
30歳代	182	22.0%	52.7%	8.8%	34.1%	53.3%	30.2%	12.6%	17.6%	6.6%	
40歳代	177	19.8%	52.5%	16.9%	31.1%	45.8%	33.9%	10.2%	19.8%	5.1%	
50歳代	216	26.4%	48.1%	19.9%	35.2%	26.4%	41.7%	5.1%	21.8%	5.1%	
60歳代	284	18.0%	37.7%	19.7%	27.8%	34.5%	37.0%	5.6%	35.6%	3.9%	
70歳代	178	20.8%	38.8%	23.6%	26.4%	24.2%	40.4%	7.3%	24.7%	5.1%	
80歳代	95	18.9%	27.4%	18.9%	13.7%	17.9%	33.7%	1.1%	20.0%	5.3%	
職業別											
会社員	346	17.3%	44.8%	15.0%	32.4%	41.0%	38.7%	12.1%	18.5%	5.8%	
自営業	133	17.3%	40.6%	24.1%	22.6%	25.6%	35.3%	9.0%	24.1%	3.0%	
農林漁業	17	23.5%	23.5%	23.5%	11.8%	11.8%	29.4%	0.0%	52.9%	0.0%	
公務員	77	18.2%	51.9%	16.9%	31.2%	36.4%	31.2%	13.0%	19.5%	5.2%	
学生	19	15.8%	78.9%	0.0%	31.6%	42.1%	5.3%	21.1%	26.3%	5.3%	
無職	448	22.1%	42.6%	20.1%	27.0%	32.1%	35.5%	6.0%	26.3%	6.3%	
その他	196	23.0%	48.5%	13.3%	36.7%	42.3%	38.3%	6.1%	24.5%	4.6%	
地区別											
東部	373	19.0%	42.6%	20.4%	31.1%	39.4%	38.3%	9.9%	22.5%	4.8%	
西部	139	26.6%	39.6%	23.7%	30.2%	39.6%	30.9%	12.2%	34.5%	4.3%	
中央	266	19.5%	47.0%	13.2%	30.1%	30.1%	33.8%	7.5%	21.4%	7.5%	
南部	221	20.4%	48.9%	17.6%	27.6%	37.1%	35.7%	6.8%	23.1%	4.1%	
北部	243	18.1%	45.3%	14.8%	28.4%	32.1%	38.3%	7.4%	22.6%	5.3%	

◆ 参考 ◆

○その他の内容

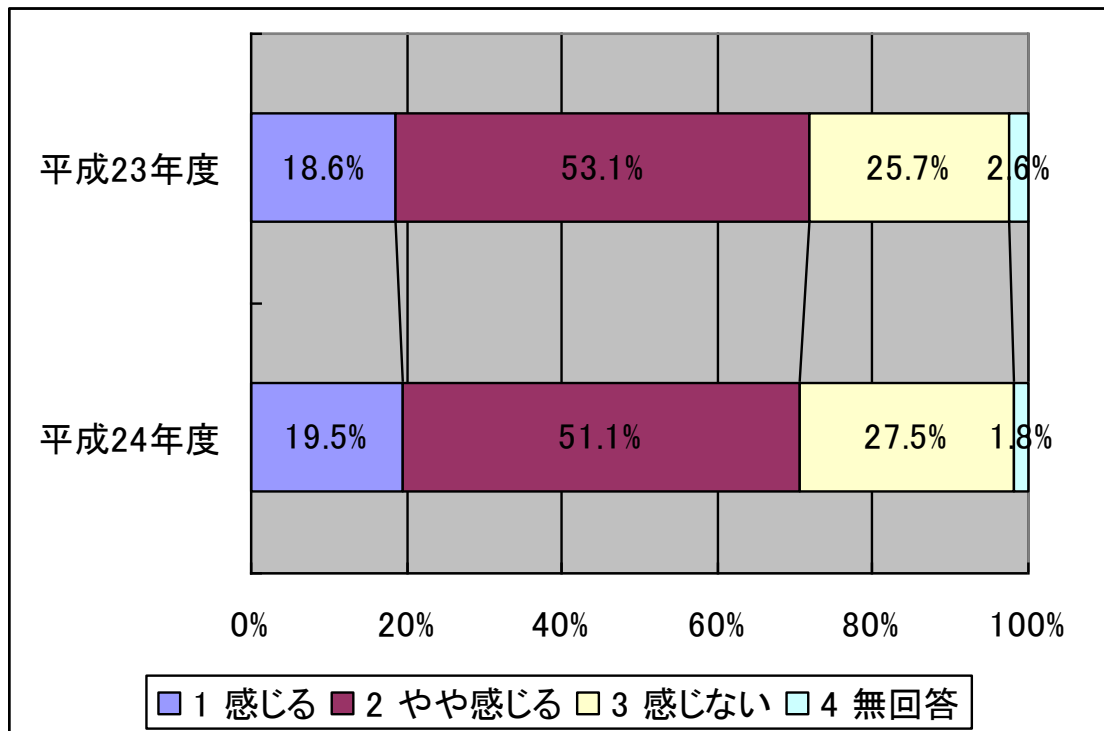
- ・「環境都市くまもと」を全面に打ち出して市民の意識を高める
- ・環境の素晴らしさを心で感じ取れるようなイベント活動
- ・環境を悪化させる行為への処罰
- ・テレビ、新聞で誰にでもわかるように表現してほしい
- ・学生から環境保全意識を持つような取り組み
- ・親子参加型の環境教育
- ・日常的に取り組んでいる市民とそうでない市民の討論とアクションプラン作り(市民の手で)
- ・取り組んでいる一般市民へのインセンティブ付与、あるいはそうでない市民へのネガティブインセンティブの付与(ペナルティ)
- ・社会の団体における環境保全意識評価を義務化し、評価の際に学習会のイベントを告知すると「こういうものがあるのか」と認識できる
- ・緑地を広げたり、自転車道を整備したり、街路樹の剪定をしないなどの実践をすること
- ・テレビ・ラジオの活用
- ・ホームページ・ネット等を利用してゲーム感覚やクイズ形式で正解したらエコグッズをもらえるなど
- ・家庭内の常識教育の為の親への教育
- ・PC・メール等でお知らせを行う
- ・マスコミを利用してコマーシャルのように流す
- ・人体や環境にやさしい製品(食品)を作るよう、企業への働きかけ(個人としては、そのような製品を購入する努力をしている。)
- ・県民に除染について説明する。すればするほど廃棄物が出るが、処理する所はない。また、現在置いてある所がどうなるか将来わからない事など
- ・地元企業とのコラボ
- ・環境保全の企業(会社)の広報
- ・近い会場で義務的に参加させるような形
- ・県出身のタレントが市民に訴えかける
- ・市職員の氏名を明らかにして、詳細な報告を度々行う
- ・日曜日に少人数での講演会開催(公民館など)

問6～11「まちづくりプロジェクト」について

問6. 環境保全に関わるまちづくりの活動が増えてきたと感じますか。(1つだけ)

【全体結果】

- ・「やや感じる」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「感じる」が 27.5%、感じるが 19.5%となっている。
- ・「やや感じる」と「感じる」の割合を合わせると 70.6%で、前回調査と比較すると 1.1% 低下している。



【男女別】

- ・性別による違いはあまり見られない。

【年代別】

- ・「やや感じる」と「感じる」を合わせた割合は、50歳代が 76.4%と最も高く、次いで 60歳代と 70歳代(73.6%)、80歳代(71.6%)となっている。
- ・20歳代では、「やや感じる」と「感じる」を合わせた割合が 56.0%と、他の世代と比較して低くなっている。

【職業別】

- ・「やや感じる」と「感じる」を合わせた割合は、農林漁業が 76.4%と最も高く、次いで その他(75.0%)、学生(73.7%)となっている。

【地区別】

・「やや感じる」と「感じる」を合わせた割合は、北部が 74.0%と最も高く、次いで西部 (73.4%)、中央(70.3%)となっている。

■回答者の属性別にみた「環境保全に関わるまちづくりの活動が増えてきたと感じますか。(1つだけ)」

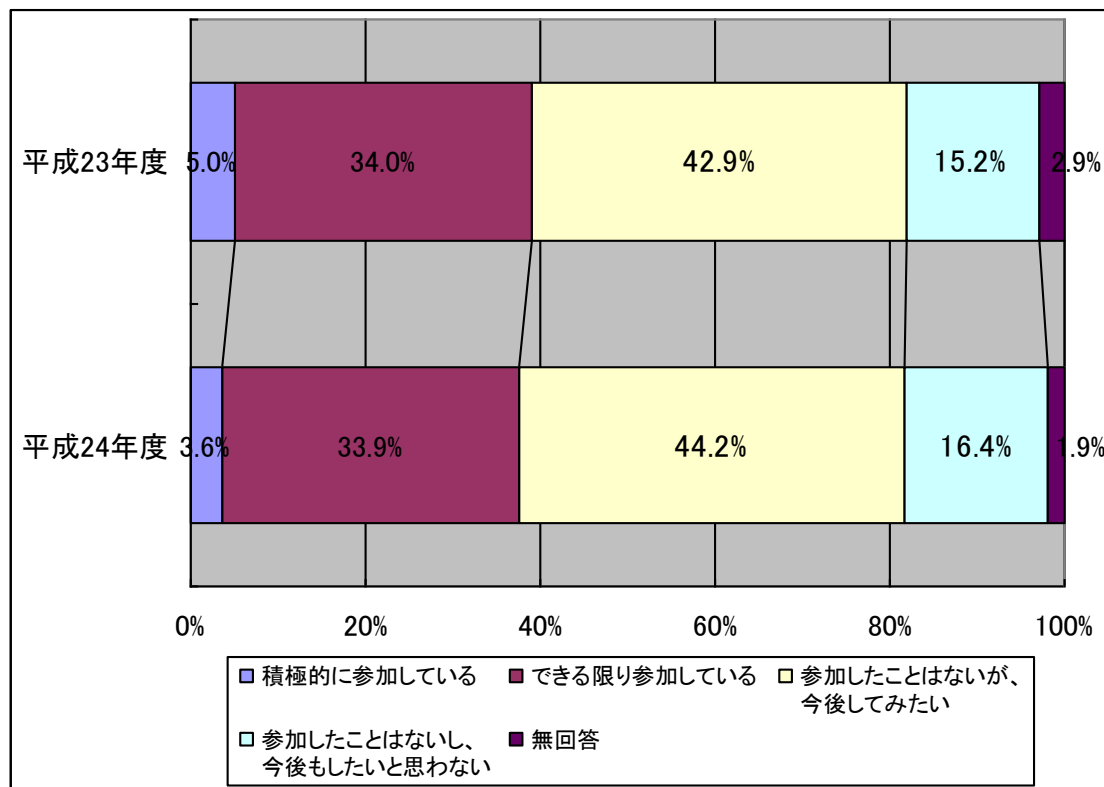
	合計	感じる	やや感じる	感じない	無回答
全体	1,264	19.5%	51.1%	27.5%	1.8%
性別					
男性	565	19.8%	50.4%	28.3%	1.4%
女性	675	19.0%	52.0%	27.0%	2.1%
年代別					
20歳代	109	11.0%	45.0%	44.0%	0.0%
30歳代	182	16.5%	52.2%	31.3%	0.0%
40歳代	177	16.4%	50.3%	32.8%	0.6%
50歳代	216	22.2%	54.2%	23.1%	0.5%
60歳代	284	18.3%	55.3%	24.3%	2.1%
70歳代	178	27.0%	46.6%	23.6%	2.8%
80歳代	95	23.2%	48.4%	18.9%	9.5%
職業別					
会社員	346	17.9%	48.6%	33.5%	0.0%
自営業	133	16.5%	54.1%	27.8%	1.5%
農林漁業	17	17.6%	58.8%	11.8%	11.8%
公務員	77	20.8%	48.1%	31.2%	0.0%
学生	19	15.8%	57.9%	26.3%	0.0%
無職	448	20.5%	51.3%	24.8%	3.3%
その他	196	21.4%	53.6%	23.5%	1.5%
地区別					
東部	373	20.1%	49.6%	28.2%	2.1%
西部	139	23.0%	50.4%	25.2%	1.4%
中央	266	17.7%	52.6%	28.2%	1.5%
南部	221	18.6%	49.3%	30.3%	1.8%
北部	243	18.9%	55.1%	24.3%	1.6%

問7. 日頃、地域の環境保全活動に参加していますか。(1つだけ)

【全体結果】

・「参加したことはないが、今後してみたい」の割合が 44.2%と最も高く、次いで「できる限り参加している」が 33.9%、「参加したことはないし、今後もしたいと思わない」が 16.4%となっている。

・「積極的に参加している」と「できる限り参加している」を合わせると 37.5%で、前回調査と比較すると 1.5%低下している。



【男女別】

・「積極的に参加している」と「できる限り参加している」を合わせた割合は、男性が 34.2%、女性が 39.7%と、女性のほうが高くなっている。

【年代別】

・「積極的に参加している」と「できる限り参加している」を合わせた割合は、40 歳代では 49.2%と最も高く、次いで 60 歳代(43.3%)、70 歳代(43.2%)となっている。また、20 歳代では 9.2%、30 歳代では 24.7%と、他の世代と比較すると低くなっている。

【職業別】

・「積極的に参加している」と「できる限り参加している」を合わせた割合は、農林漁業では 88.3%と最も高く、次いでその他(43.9%)、無職(40.8%)となっている。また、学生では 15.8%と最も低くなっている。

【地区別】

・「積極的に参加している」と「できる限り参加している」を合わせた割合は、西部では46.1%と最も高く、次いで南部(41.6%)、北部(41.5%)となっている。また、中央部では27.4%と最も低くなっている。

■回答者の属性別にみた「日頃、地域の環境保全活動に参加していますか。(1つだけ)」

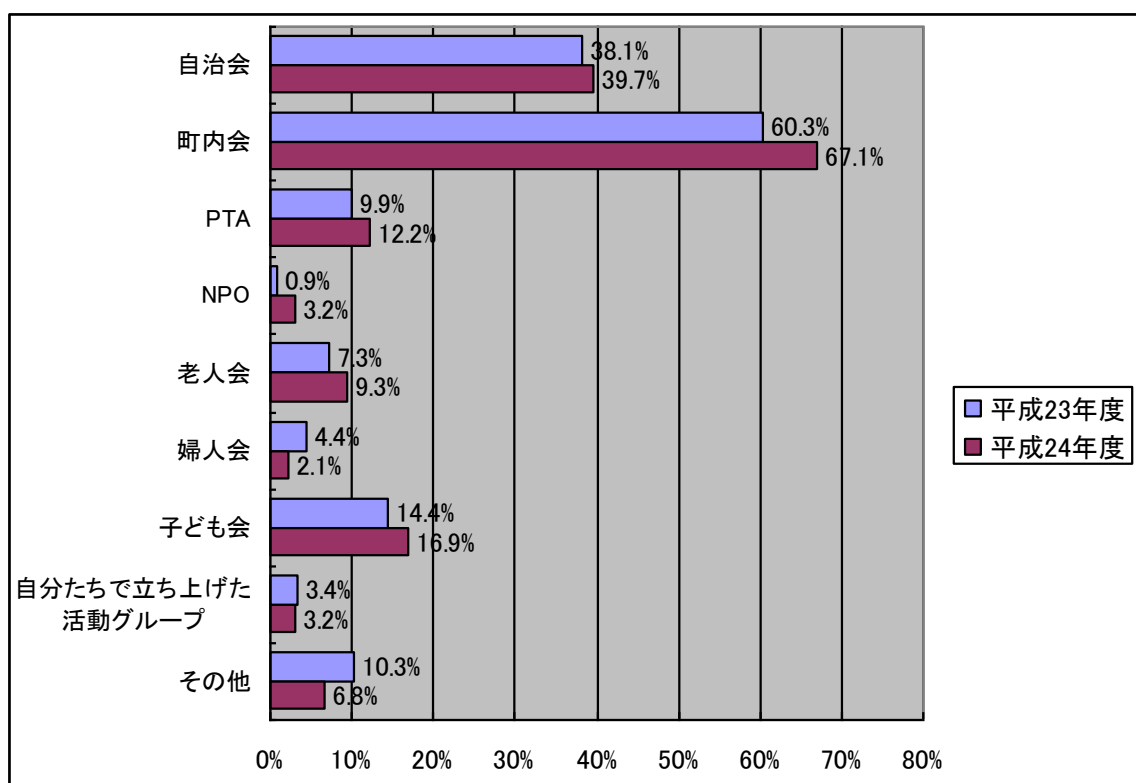
	合計	積極的に参加している	できる限り参加している	参加した、しかし今後とは見ない	参加した、しかし今後ともしない	無回答
全体	1,264	3.6%	33.9%	44.2%	16.4%	1.9%
性別						
男性	565	4.4%	29.7%	47.4%	17.2%	1.2%
女性	675	2.4%	37.3%	42.2%	15.6%	2.5%
年代別						
20歳代	109	0.0%	9.2%	57.8%	32.1%	0.9%
30歳代	182	1.6%	23.1%	53.8%	20.9%	0.5%
40歳代	177	3.4%	45.8%	40.1%	10.2%	0.6%
50歳代	216	4.6%	37.5%	45.4%	11.6%	0.9%
60歳代	284	5.3%	38.0%	45.8%	9.9%	1.1%
70歳代	178	2.8%	40.4%	35.4%	18.5%	2.8%
80歳代	95	4.2%	26.3%	30.5%	27.4%	11.6%
職業別						
会社員	346	4.0%	25.1%	52.6%	17.3%	0.9%
自営業	133	2.3%	34.6%	42.9%	19.5%	0.8%
農林漁業	17	5.9%	82.4%	5.9%	5.9%	0.0%
公務員	77	0.0%	33.8%	55.8%	7.8%	2.6%
学生	19	0.0%	15.8%	63.2%	21.1%	0.0%
無職	448	4.2%	36.6%	38.8%	16.5%	3.8%
その他	196	3.1%	40.8%	40.8%	14.8%	0.5%
地区別						
東部	373	3.8%	31.9%	45.3%	17.4%	1.6%
西部	139	2.2%	43.9%	38.8%	13.7%	1.4%
中央	266	1.5%	25.9%	48.9%	21.1%	2.6%
南部	221	4.5%	37.1%	40.3%	16.3%	1.8%
北部	243	4.9%	36.6%	45.7%	10.7%	2.1%

問7-1. 問7で「積極的に参加している」又は「できる限り参加している」と答えられた方にお尋ねします。

どのような団体の活動に参加していますか。(複数回答可)

【全体結果】

- ・「積極的に参加している」又は「できる限り参加している」と回答したうち、「町内会」の割合が 67.1%と最も高く、次いで「自治会」(39.7%)、「子ども会」(16.9%)となっている。
- ・前回調査では「PTA」と「老人会」の割合は、それぞれ5位と6位だったが、今回調査ではそれぞれ4位と5位に上がっている。



【男女別】

- ・男性では「老人会」の割合が 13.5%と、女性と比較して 7.5%高くなっている。
- ・女性では「町内会」の割合が 70.1%と、男性と比較して 9.0%高くなっている。また、「子ども会」の割合が 20.1%と、男性と比較して 7.7%高くなっている。

【年代別】

- ・20 歳代では「NPO」の割合が 30.0%と、他の年代と比較して高くなっている。
- ・30 歳代では「子ども会」の割合が 46.7%と、他の年代と比較して高くなっている。
- ・40 歳代では「PTA」の割合が 36.8%と、他の年代と比較して高くなっている。
- ・80 歳代では「老人会」の割合が 48.3%と、他の年代と比較して高くなっている。

【職業別】

・農林漁業では「自治会」が 66.7%、「老人会」が 26.7%、「婦人会」が 20.0%と、他の職業と比較して高くなっている。

【地区別】

・南部では「自治会」が 52.2%と、他の地区と比較して高くなっている。

■回答者の属性別にみた「問7で「積極的に参加している」又は「できる限り参加している」と回答した場合、どのような団体の活動に参加していますか。(複数回答可)」

	合計	自治会	町内会	P T A	N P O	老人会	婦人会	子ども会	自分たちで立ち上げた活動グループ	その他
全体	474	39.7%	67.1%	12.2%	3.2%	9.3%	2.1%	16.9%	3.2%	6.8%
性別										
男性	193	40.4%	61.1%	9.8%	3.1%	13.5%	0.0%	12.4%	4.1%	10.9%
女性	268	38.1%	70.1%	14.6%	3.4%	6.0%	3.4%	20.1%	2.6%	3.7%
年代別										
20歳代	10	20.0%	40.0%	10.0%	30.0%	0.0%	0.0%	20.0%	10.0%	30.0%
30歳代	45	28.9%	64.4%	28.9%	4.4%	0.0%	2.2%	46.7%	2.2%	4.4%
40歳代	87	35.6%	64.4%	36.8%	1.1%	1.1%	0.0%	35.6%	1.1%	10.3%
50歳代	91	41.8%	69.2%	7.7%	5.5%	1.1%	3.3%	11.0%	4.4%	9.9%
60歳代	123	44.7%	66.7%	3.3%	2.4%	8.1%	1.6%	7.3%	3.3%	4.9%
70歳代	77	40.3%	68.8%	1.3%	1.3%	22.1%	2.6%	5.2%	3.9%	1.3%
80歳代	29	37.9%	65.5%	0.0%	0.0%	48.3%	3.4%	3.4%	3.4%	3.4%
職業別										
会社員	101	32.7%	67.3%	18.8%	6.9%	1.0%	0.0%	22.8%	3.0%	10.9%
自営業	49	51.0%	55.1%	12.2%	2.0%	6.1%	2.0%	14.3%	2.0%	8.2%
農林漁業	15	66.7%	20.0%	6.7%	0.0%	26.7%	20.0%	6.7%	6.7%	6.7%
公務員	26	53.8%	34.6%	11.5%	3.8%	3.8%	0.0%	15.4%	7.7%	19.2%
学生	3	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%
無職	183	38.3%	74.9%	8.2%	1.1%	16.9%	2.2%	10.4%	2.7%	2.7%
その他	86	32.6%	72.1%	16.3%	3.5%	3.5%	1.2%	26.7%	2.3%	4.7%
地区別										
東部	133	38.3%	68.4%	10.5%	3.8%	7.5%	0.0%	16.5%	1.5%	9.8%
西部	64	35.9%	64.1%	15.6%	4.7%	4.7%	4.7%	17.2%	4.7%	3.1%
中央	73	28.8%	65.8%	20.5%	5.5%	4.1%	0.0%	19.2%	8.2%	12.3%
南部	92	52.2%	63.0%	7.6%	2.2%	13.0%	6.5%	15.2%	2.2%	2.2%
北部	101	37.6%	68.3%	11.9%	1.0%	14.9%	0.0%	16.8%	2.0%	5.0%

◆ 参考 ◆

○その他の内容

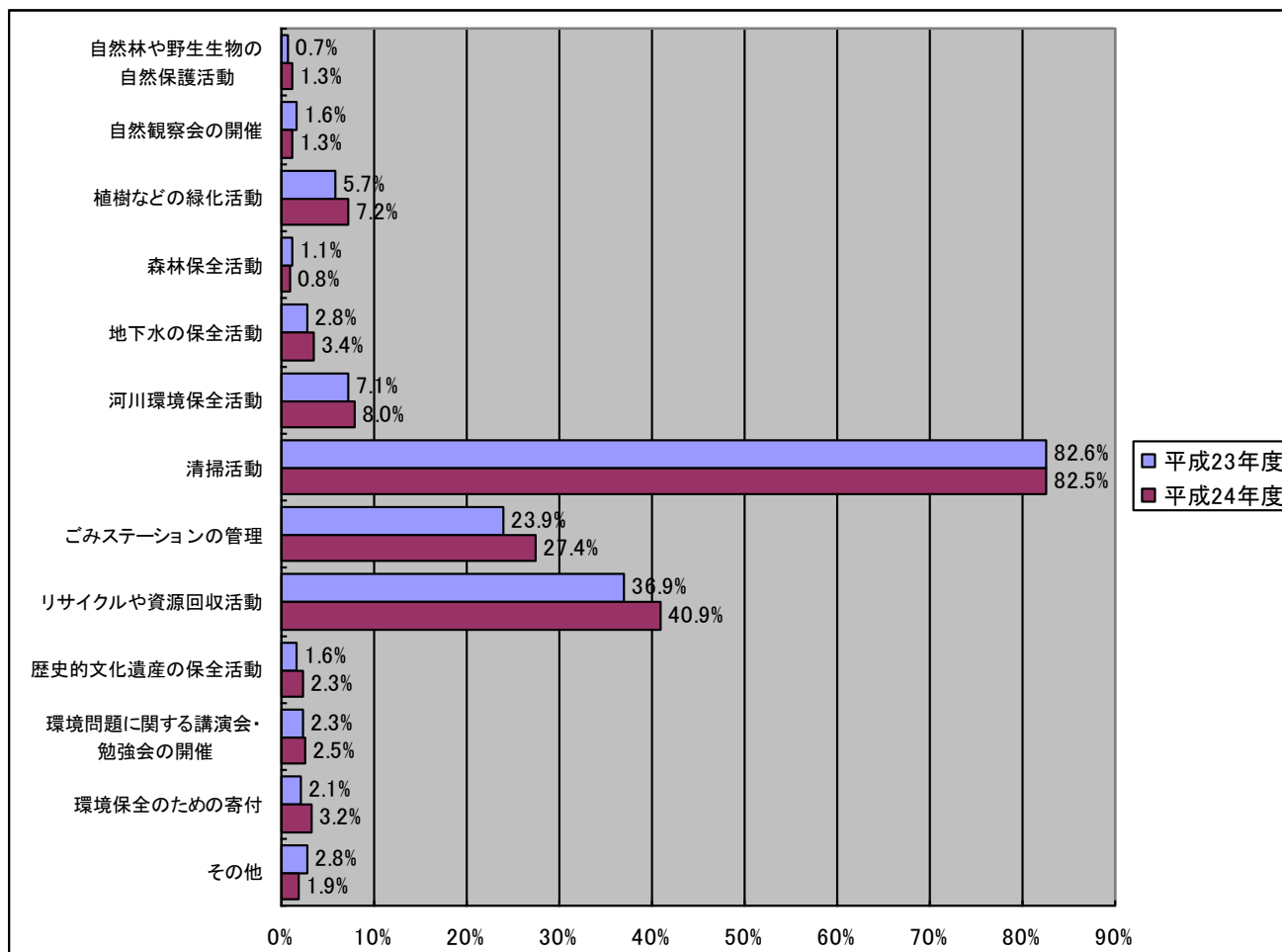
- ・企業で作った活動団体
- ・本田技研
- ・ライオンズクラブ
- ・組合活動
- ・協力業者環境保全会
- ・熊本建築労働組合
- ・職場
- ・公園愛護会
- ・学校
- ・公益財団
- ・農家の区役
- ・熊本県のロードクリーンボランティア
- ・商店街
- ・生協(グリーンコープ)
- ・町内
- ・同窓会

問7ー2. 問7で「積極的に参加している」又は「できる限り参加している」と答えられた方にお尋ねします。

現在、地域においてどのような環境保全活動に参加していますか。(複数回答可)

【全体結果】

- ・「積極的に参加している」又は「できる限り参加している」と回答したうち、「清掃活動」の割合が 82.5%と最も高く、次いで「リサイクルや資源回収活動」(40.9%)、ごみステーションの管理(27.4%)となっている。
- ・前回調査と比較すると、多くの項目で回答割合が高くなっているが、順位に大きな変化は見られない。



【男女別】

- ・男性では「河川環境保全活動」の割合が 12.4%と、女性と比較して 7.5%高くなっている。
- ・女性では「ごみステーションの管理」の割合が 29.9%と、男性と比較して 7.1%高くなっている。また、「リサイクルや資源回収活動」の割合が 45.5%と、男性と比較して 10.3%高くなっている。

【年代別】

・40歳代では「リサイクルや資源回収活動」の割合が52.9%と、他の年代と比較して高くなっている。

【職業別】

・農林漁業では「河川環境保全活動」の割合が26.7%、「リサイクルや資源回収活動」の割合が60.0%と、他の職業と比較して高くなっている。

【地区別】

・北部では「ごみステーションの管理」が40.6%と、他の地区と比較して高くなっている。

■回答者の属性別にみた「問7で「積極的に参加している」又は「できる限り参加している」と回答した場合、現在、地域においてどのような環境保全活動に参加していますか。(複数回答可)」

	合計	の自然林や野生生物の自然保護活動	自然観察会の開催	動植樹などの緑化活動	森林保全活動	地下水の保全活動	河川環境保全活動	清掃活動	ごみステーションの管理	リサイクルや資源回収活動	歴史的文化遺産の保全活動	環境問題に関する講演会・勉強会の開催	環境保全のための寄付	その他
全体	474	1.3%	1.3%	7.2%	0.8%	3.4%	8.0%	82.5%	27.4%	40.9%	2.3%	2.5%	3.2%	1.9%
性別														
男性	193	2.6%	1.0%	9.8%	1.0%	5.7%	12.4%	81.3%	22.8%	35.2%	3.6%	3.6%	1.6%	3.1%
女性	268	0.4%	1.5%	5.2%	0.7%	1.9%	4.9%	84.0%	29.9%	45.5%	0.7%	1.9%	4.1%	1.1%
年代別														
20歳代	10	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	20.0%	10.0%	100.0%	10.0%	40.0%	10.0%	0.0%	10.0%	0.0%
30歳代	45	0.0%	2.2%	6.7%	2.2%	4.4%	2.2%	77.8%	37.8%	40.0%	0.0%	2.2%	4.4%	0.0%
40歳代	87	0.0%	2.3%	4.6%	0.0%	2.3%	5.7%	89.7%	20.7%	52.9%	1.1%	3.4%	3.4%	0.0%
50歳代	91	3.3%	1.1%	9.9%	1.1%	5.5%	8.8%	81.3%	27.5%	35.2%	4.4%	3.3%	4.4%	1.1%
60歳代	123	2.4%	1.6%	6.5%	1.6%	2.4%	10.6%	83.7%	32.5%	40.7%	0.8%	1.6%	0.0%	4.1%
70歳代	77	0.0%	0.0%	5.2%	0.0%	1.3%	6.5%	76.6%	23.4%	41.6%	1.3%	3.9%	3.9%	0.0%
80歳代	29	0.0%	0.0%	13.8%	0.0%	3.4%	13.8%	79.3%	20.7%	27.6%	3.4%	0.0%	3.4%	10.3%
職業別														
会社員	101	2.0%	2.0%	9.9%	2.0%	7.9%	9.9%	82.2%	21.8%	38.6%	4.0%	2.0%	3.0%	0.0%
自営業	49	2.0%	0.0%	6.1%	0.0%	2.0%	14.3%	71.4%	20.4%	30.6%	0.0%	4.1%	0.0%	4.1%
農林漁業	15	0.0%	0.0%	13.3%	0.0%	13.3%	26.7%	93.3%	26.7%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%
公務員	26	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	7.7%	88.5%	23.1%	42.3%	3.8%	0.0%	11.5%	3.8%
学生	3	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無職	183	0.5%	1.1%	7.1%	0.5%	0.5%	6.0%	83.1%	27.9%	41.5%	1.6%	1.6%	3.3%	2.2%
その他	86	1.2%	2.3%	4.7%	0.0%	3.5%	3.5%	83.7%	37.2%	44.2%	1.2%	5.8%	2.3%	1.2%
地区別														
東部	133	2.3%	2.3%	5.3%	1.5%	3.8%	3.0%	79.7%	29.3%	37.6%	1.5%	2.3%	1.5%	2.3%
西部	64	0.0%	1.6%	6.3%	0.0%	1.6%	12.5%	75.0%	18.8%	39.1%	3.1%	6.3%	6.3%	1.6%
中央	73	0.0%	0.0%	9.6%	1.4%	6.8%	6.8%	83.6%	16.4%	46.6%	1.4%	4.1%	5.5%	0.0%
南部	92	0.0%	1.1%	6.5%	1.1%	2.2%	10.9%	84.8%	22.8%	41.3%	1.1%	1.1%	2.2%	2.2%
北部	101	3.0%	1.0%	8.9%	0.0%	3.0%	9.9%	88.1%	40.6%	42.6%	3.0%	1.0%	2.0%	3.0%

◆ 参考 ◆

○その他の内容

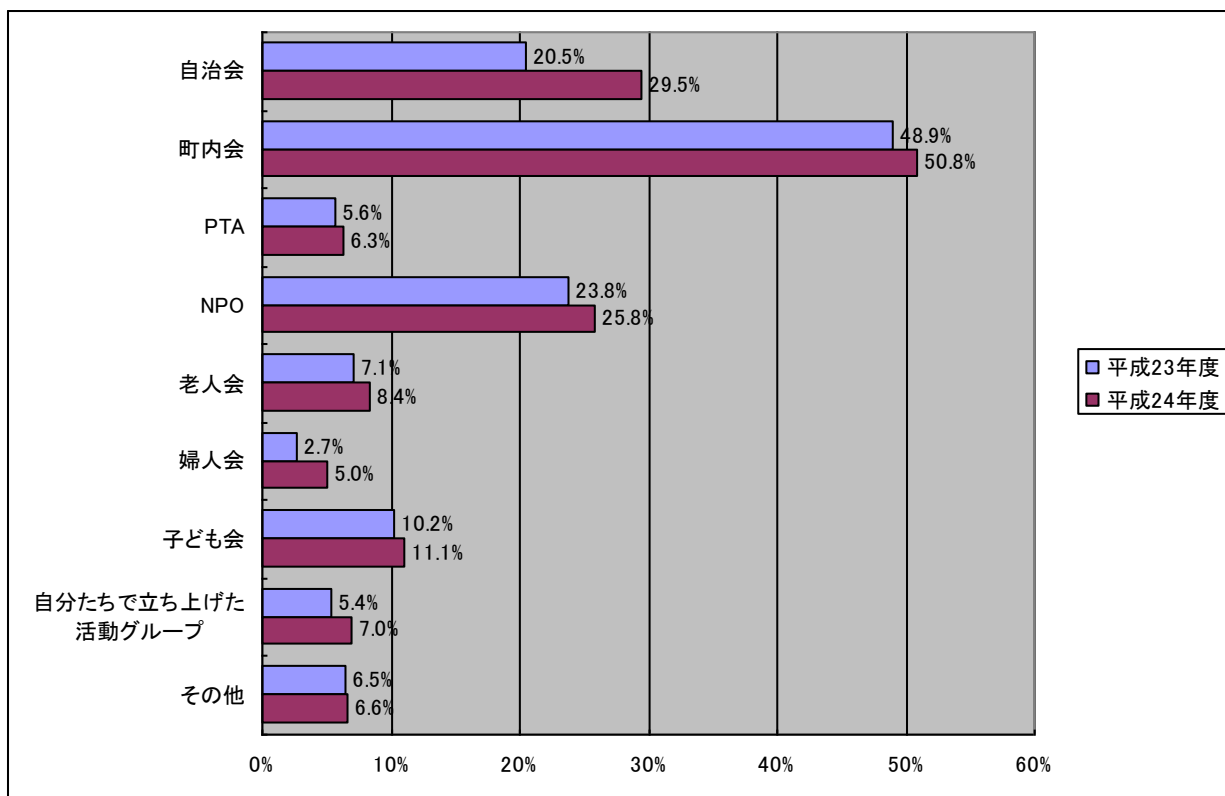
- ・電車通りの緑化
- ・道路のゴミ取り
- ・自宅周辺の美化
- ・大気汚染の測定活動
- ・花植
- ・公園の草刈、剪定等
- ・農地、水環境保全活動
- ・水土里ネットにて草刈、植樹等
- ・職場敷地内の落葉掃除、草取りなど

問7-3. 問7で「参加したことはないが、今後してみたい」と答えられた方にお尋ねします。

どのような団体の活動に参加してみたいですか。(複数回答可)

【全体結果】

- ・「参加したことはないが、今後してみたい」と回答したうち、「町内会」の割合が50.8%と最も高く、次いで「自治会」(29.5%)、「NPO」(25.8%)となっている。
- ・「自治会」の割合は、前回調査では3位だったが、今回調査では2位に上がっている。



【男女別】

- ・性別による差はあまり見られない。

【年代別】

- ・30歳代では「子ども会」の割合が32.7%と、他の年代と比較して高くなっている。
- ・80歳代と70歳代では「老人会」の割合がそれぞれ44.8%、27.0%と、他の年代と比較して高くなっている。

【職業別】

- ・学生では「NPO」の割合が50.0%と、他の職業と比較して高くなっている。
- ・無職では「老人会」の割合が19.5%と、他の職業と比較して高くなっている。

【地区別】

- ・西部では「町内会」の割合が61.1%と、他の地区と比較して高くなっている。

■回答者の属性別にみた「問7で「参加したことはないが、今後してみたい」と回答した場合、どのような団体の活動に参加してみたいですか。(複数回答可)」

	合計	自治会	町内会	P T A	N P O	老人会	婦人会	子ども会	自分たちで立ち上げた活動グループ	その他
全体	559	29.5%	50.8%	6.3%	25.8%	8.4%	5.0%	11.1%	7.0%	6.6%
性別										
男性	268	31.7%	49.3%	5.2%	24.6%	10.8%	1.5%	9.7%	9.3%	5.2%
女性	285	28.1%	51.9%	7.4%	27.0%	6.3%	8.1%	12.6%	4.6%	8.1%
年代別										
20歳代	63	14.3%	41.3%	3.2%	33.3%	1.6%	1.6%	15.9%	14.3%	14.3%
30歳代	98	31.6%	46.9%	13.3%	33.7%	1.0%	7.1%	32.7%	4.1%	7.1%
40歳代	71	33.8%	46.5%	19.7%	28.2%	0.0%	1.4%	18.3%	11.3%	11.3%
50歳代	98	33.7%	46.9%	3.1%	31.6%	3.1%	3.1%	2.0%	9.2%	8.2%
60歳代	130	34.6%	60.0%	2.3%	23.1%	9.2%	7.7%	3.1%	3.1%	3.8%
70歳代	63	27.0%	54.0%	0.0%	11.1%	27.0%	7.9%	1.6%	1.6%	0.0%
80歳代	29	20.7%	55.2%	0.0%	3.4%	44.8%	0.0%	0.0%	10.3%	0.0%
職業別										
会社員	182	28.0%	41.8%	9.9%	29.7%	2.2%	3.3%	15.9%	7.7%	10.4%
自営業	57	29.8%	50.9%	7.0%	22.8%	3.5%	1.8%	7.0%	3.5%	5.3%
農林漁業	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公務員	43	37.2%	44.2%	2.3%	37.2%	4.7%	0.0%	9.3%	11.6%	14.0%
学生	12	16.7%	58.3%	8.3%	50.0%	0.0%	0.0%	8.3%	16.7%	8.3%
無職	174	29.9%	57.5%	4.0%	17.8%	19.5%	6.9%	8.6%	4.0%	1.1%
その他	80	31.3%	57.5%	5.0%	28.8%	6.3%	10.0%	11.3%	10.0%	6.3%
地区別										
東部	169	33.1%	46.2%	7.1%	26.0%	7.1%	4.1%	8.9%	10.7%	8.3%
西部	54	27.8%	61.1%	7.4%	22.2%	16.7%	5.6%	11.1%	0.0%	3.7%
中央	130	28.5%	51.5%	4.6%	30.8%	8.5%	4.6%	13.1%	4.6%	9.2%
南部	89	30.3%	52.8%	9.0%	27.0%	6.7%	3.4%	13.5%	6.7%	1.1%
北部	111	27.0%	51.4%	4.5%	20.7%	8.1%	7.2%	10.8%	7.2%	6.3%

◆ 参考 ◆

○その他の内容

- ・民間企業
- ・JT
- ・身近に接していると感じる団体や自由参加の団体
- ・ボランティア団体
- ・気軽に参加できる団体
- ・環境問題に活発に活動しているグループ
- ・中小企業事業者のネットワーク等を活用した定例(月例)活動 (新たな活動グループの行政支援による立ち上げ)
- ・会社
- ・学校
- ・幼稚園の保護者活動
- ・市職員が必ず入るグループ
- ・市などが積極的に関与した、しがらみの無いオープンな形のもの

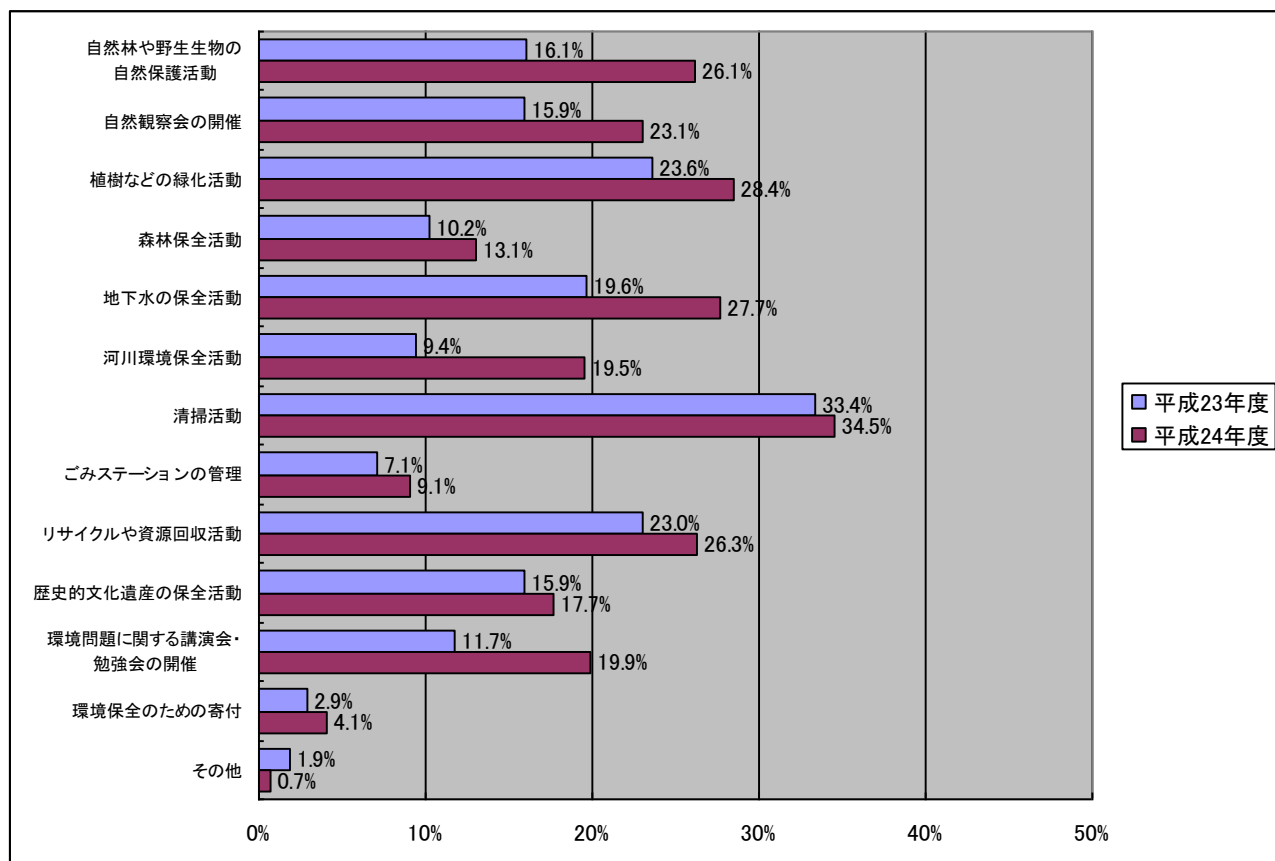
問7-4. 問7で「参加したことはないが、今後してみたい」と答えられた方にお尋ねします。

今後、どのような環境保全活動に参加してみたいですか。(複数回答可)

【全体結果】

・「参加したことはないが、今後してみたい」と回答したうち、「清掃活動」の割合が34.5%と最も高く、次いで「植樹などの緑化活動」(28.4%)、「地下水の保全活動」(27.7%)となっている。

・「地下水の保全活動」の割合は、前回調査では4位だったが、今回調査では3位に上がっている。



【男女別】

・男性では「河川環境保全活動」の割合が24.3%と、女性と比較して8.9%高くなっている。また、「歴史的文化遺産の保全活動」が22.4%と、女性と比較して9.1%高くなっている。

・女性では「リサイクルや資源回収活動」の割合が30.5%と、男性と比較して8.5%高くなっている。

【年代別】

・20歳代では「清掃活動」の割合が49.2%、「歴史的文化遺産の保全活動」の割合が25.4%と、他の年代と比較して高くなっている。

【職業別】

- ・公務員では「地下水の保全活動」の割合が 46.5%、「リサイクルや資源回収活動」の割合が 41.9%と、他の職業と比較して高くなっている。
- ・公務員と学生では「河川環境保全活動」の割合がそれぞれ 32.6%、33.3%と、他の職業と比較して高くなっている。

【地区別】

- ・西部では「清掃活動」の割合が 50.0%と、他の地区と比較して高くなっている。

■回答者の属性別にみた「問7で「参加したことはないが、今後してみたい」と回答した場合、今後、どのような環境保全活動に参加してみたいですか。(複数回答可)」

	合計	自然林や野生生物の自然保護活動	自然観察会の開催	植樹などの緑化活動	森林保全活動	地下水の保全活動	河川環境保全活動	清掃活動	ごみステーションの管理	リサイクルや資源回収活動	歴史的文化遺産の保全活動	講演会・勉強会に関する	環境問題への関心	環境保全のための寄付	その他
全体	559	26.1%	23.1%	28.4%	13.1%	27.7%	19.5%	34.5%	9.1%	26.3%	17.7%	19.9%	4.1%	0.7%	
性別															
男性	268	29.9%	20.9%	27.2%	16.0%	31.0%	24.3%	32.5%	8.6%	22.0%	22.4%	17.5%	5.6%	1.5%	
女性	285	23.2%	25.3%	30.2%	10.5%	24.9%	15.4%	36.8%	9.5%	30.5%	13.3%	22.1%	2.8%	0.0%	
年代別															
20歳代	63	28.6%	20.6%	33.3%	20.6%	28.6%	22.2%	49.2%	9.5%	27.0%	25.4%	12.7%	3.2%	0.0%	
30歳代	98	33.7%	29.6%	38.8%	14.3%	26.5%	23.5%	39.8%	9.2%	30.6%	16.3%	21.4%	3.1%	0.0%	
40歳代	71	26.8%	23.9%	38.0%	9.9%	32.4%	18.3%	33.8%	9.9%	32.4%	15.5%	15.5%	4.2%	0.0%	
50歳代	98	28.6%	22.4%	24.5%	14.3%	30.6%	28.6%	26.5%	9.2%	32.7%	18.4%	23.5%	3.1%	0.0%	
60歳代	130	24.6%	23.1%	26.2%	11.5%	29.2%	15.4%	33.8%	9.2%	24.6%	17.7%	22.3%	5.4%	2.3%	
70歳代	63	17.5%	20.6%	20.6%	9.5%	20.6%	14.3%	31.7%	6.3%	9.5%	14.3%	17.5%	6.3%	0.0%	
80歳代	29	17.2%	13.8%	6.9%	13.8%	17.2%	6.9%	27.6%	10.3%	20.7%	17.2%	20.7%	3.4%	3.4%	
職業別															
会社員	182	26.4%	27.5%	35.2%	16.5%	28.6%	23.6%	29.7%	8.8%	25.8%	22.0%	20.3%	2.7%	0.0%	
自営業	57	33.3%	14.0%	21.1%	8.8%	24.6%	21.1%	33.3%	14.0%	19.3%	17.5%	22.8%	3.5%	3.5%	
農林漁業	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
公務員	43	37.2%	34.9%	30.2%	18.6%	46.5%	32.6%	39.5%	7.0%	41.9%	27.9%	16.3%	11.6%	0.0%	
学生	12	41.7%	8.3%	41.7%	33.3%	33.3%	33.3%	50.0%	0.0%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
無職	174	20.1%	20.1%	23.0%	10.9%	23.6%	13.2%	33.3%	8.6%	22.4%	14.4%	21.3%	5.7%	1.1%	
その他	80	28.8%	22.5%	28.8%	8.8%	27.5%	16.3%	46.3%	8.8%	35.0%	8.8%	18.8%	1.3%	0.0%	
地区別															
東部	169	27.8%	24.3%	33.1%	13.6%	32.5%	21.3%	30.2%	9.5%	22.5%	21.3%	20.1%	2.4%	1.2%	
西部	54	27.8%	25.9%	29.6%	14.8%	24.1%	22.2%	50.0%	3.7%	31.5%	9.3%	14.8%	1.9%	0.0%	
中央	130	24.6%	24.6%	28.5%	15.4%	26.9%	22.3%	34.6%	13.1%	26.2%	16.2%	23.8%	7.7%	0.0%	
南部	89	25.8%	24.7%	23.6%	13.5%	21.3%	16.9%	39.3%	5.6%	32.6%	16.9%	13.5%	3.4%	0.0%	
北部	111	25.2%	17.1%	25.2%	9.0%	27.9%	15.3%	29.7%	9.9%	25.2%	18.9%	23.4%	4.5%	1.8%	

◆ 参考 ◆

○その他の内容

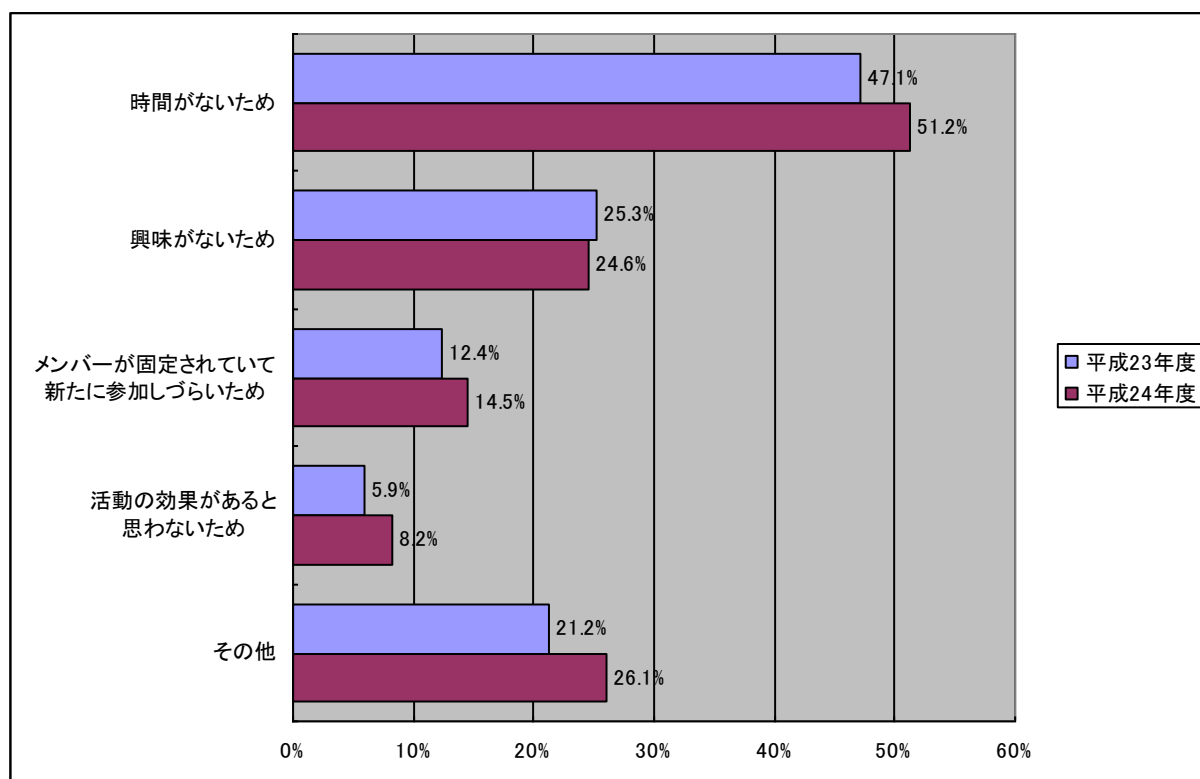
- ・ペット類の輸入販売を厳しく規制する
- ・先日の水害により被害を受けたので、特に河川環境で出来ること

問7-5. 問7で「参加したことはないし、今後もしたいと思わない」と答えられた方にお尋ねします。

参加したいと思わない理由は何ですか。(複数回答可)

【全体結果】

- ・「参加したことはないし、今後もしたいと思わない」と回答したうち、「時間がないため」の割合が 51.2%と最も高く、次いで「その他」(26.1%)、「興味がないため」(24.6%)となっている。
- ・「その他」の割合は、前回調査では3位だったが、今回調査では2位に上がっている。



【男女別】

- ・女性では「メンバーが固定されていて新たに参加しづらいため」の割合が 20.0%と、男性と比較して 11.8%高くなっている。

【年代別】

- ・「興味がないため」の割合が 20 歳代では 37.1%、50 歳代では 40.0%と、他の年代と比較して高くなっている。
- ・20 歳代から 40 歳代までの比較的若い世代では「メンバーが固定されていて新たに参加しづらいため」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

【職業別】

・職業による差はあまり見られない。

【地区別】

・「時間がないため」の割合が南部では61.1%、北部では65.4%と、他の地区と比較して高くなっている。

・南部では「メンバーが固定されていて新たに参加しづらいため」の割合が25.0%と、他の地区と比較して高くなっている。

■回答者の属性別にみた「問7で「参加したことはないし、今後もしたいと思わない」と回答した場合、参加したいと思わない理由は何ですか。(複数回答可)」

	合計	時間がないため	興味がないため	メンバーが固定されていて新たに参加しづらいため	活動の効果があると思わないため	その他
全体	207	51.2%	24.6%	14.5%	8.2%	26.1%
性別						
男性	97	50.5%	22.7%	8.2%	10.3%	24.7%
女性	105	52.4%	27.6%	20.0%	6.7%	26.7%
年代別						
20歳代	35	68.6%	37.1%	22.9%	8.6%	11.4%
30歳代	38	63.2%	28.9%	23.7%	10.5%	7.9%
40歳代	18	66.7%	22.2%	27.8%	0.0%	16.7%
50歳代	25	60.0%	40.0%	12.0%	12.0%	24.0%
60歳代	28	53.6%	14.3%	3.6%	14.3%	14.3%
70歳代	33	36.4%	21.2%	6.1%	6.1%	42.4%
80歳代	26	7.7%	7.7%	3.8%	3.8%	73.1%
職業別						
会社員	60	63.3%	30.0%	21.7%	8.3%	13.3%
自営業	26	69.2%	23.1%	15.4%	15.4%	15.4%
農林漁業	1	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公務員	6	66.7%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%
学生	4	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%
無職	74	25.7%	18.9%	4.1%	8.1%	48.6%
その他	29	65.5%	27.6%	31.0%	3.4%	10.3%
地区別						
東部	65	46.2%	24.6%	9.2%	10.8%	30.8%
西部	19	31.6%	31.6%	10.5%	0.0%	36.8%
中央	56	48.2%	14.3%	14.3%	12.5%	35.7%
南部	36	61.1%	36.1%	25.0%	8.3%	8.3%
北部	26	65.4%	30.8%	15.4%	0.0%	15.4%

◆ 参考 ◆

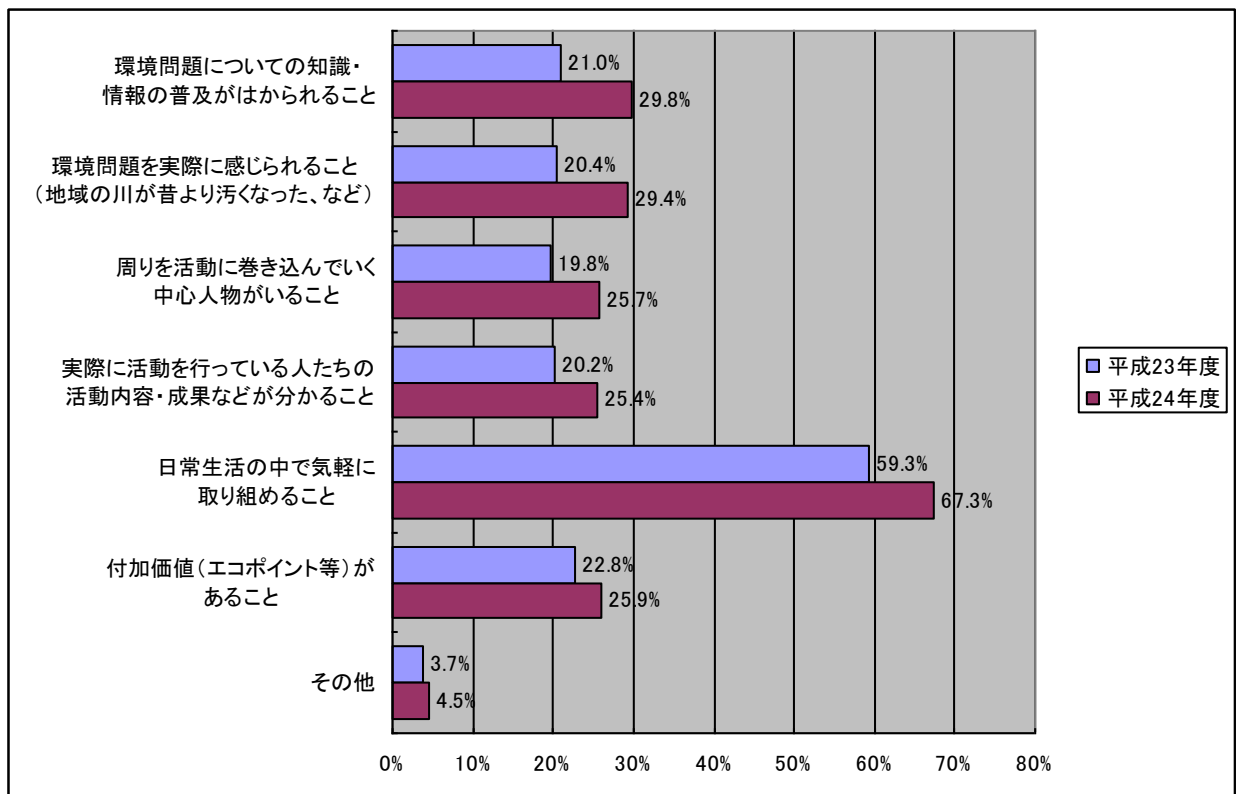
○その他の内容

- ・高齢のため
- ・具体的にどのような活動が行われているかを知らないため
- ・支援等がないため
- ・休日はゆっくり過ごしたいため
- ・活動の存在自体知らないし、よくわからないから
- ・日々の生活が大変であるため
- ・個人としての可能な取り組みを行っているため
- ・交通手段がないため
- ・そのような事業に参加するメリットが伝わってこないため
- ・家族の介護があるため
- ・健康上の都合
- ・休みが合わないため
- ・職場でEA21 に関するリーダー的役割をやらされている為、プライベートまでやりたくないから

問8. どのような条件が整えば、より多くの人まちづくりとしての環境保全活動に関わるようになると思いますか。(複数回答可)

【全体結果】

- ・「日常生活の中で気軽に取り組めること」の割合が 67.3%と最も高く、次いで「環境問題についての知識・情報の普及がはかれること」(29.8%)、「環境問題を実際に感じられること」(29.4%)となっている。
- ・前回調査では「環境問題についての知識・情報の普及がはかれること」と「環境問題を実際に感じられること」の割合は、それぞれ3位と4位だったが、今回調査ではそれぞれ2位と3位に上がっている。



【男女別】

- ・女性では「日常生活の中で気軽に取り組めること」の割合が 72.3%と、男性と比較して 10.7%高くなっている。

【年代別】

- ・20 歳代では「実際に活動を行っている人たちの活動内容・成果などが分かること」の割合が 38.5%と、他の年代と比較して高くなっている。
- ・「付加価値(エコポイント等)があること」の割合は、年代が若いほど高くなっている。

【職業別】

- ・公務員では「周りを活動に巻き込んでいく中心人物がいること」が 35.1%、「日常生活の中で気軽に取り組めること」が 83.1%と、他の職業と比較して高くなっている。
- ・学生では「環境問題を実際に感じられること」が 73.7%、「実際に活動を行っている人たちの活動内容・成果などが分かること」が 47.4%と、他の職業と比較して高くなっている。

【地区別】

- ・地区別による差はあまり見られない。

■回答者の属性別にみた「どのような条件が整えば、より多くの人まちづくりとして環境保全活動に関わるようになると思いますか。(複数回答可)」

	合計	環境問題に関する情報が広く普及していること	環境問題を身近に感じられること(地域・川・昔より汚くなど)	周りを活動に巻き込んでいく中心人物がいること	実際に活動を行う・成果などが分かること	日常生活の取り組みの中で気軽に活動できること	付加価値(エコポイント)	その他
全体	1,264	29.8%	29.4%	25.7%	25.4%	67.3%	25.9%	4.5%
性別								
男性	565	32.0%	28.8%	23.2%	27.1%	61.6%	23.4%	5.3%
女性	675	28.7%	30.1%	27.1%	24.0%	72.3%	28.7%	3.9%
年代別								
20歳代	109	24.8%	41.3%	24.8%	38.5%	67.0%	52.3%	11.0%
30歳代	182	33.0%	39.0%	20.9%	27.5%	69.8%	44.0%	4.4%
40歳代	177	26.0%	32.8%	29.4%	25.4%	70.1%	37.3%	5.1%
50歳代	216	32.4%	28.7%	28.2%	25.9%	74.1%	28.2%	3.7%
60歳代	284	31.0%	28.2%	23.6%	23.6%	69.7%	13.4%	2.8%
70歳代	178	31.5%	23.6%	28.7%	20.2%	60.1%	11.2%	2.8%
80歳代	95	28.4%	7.4%	20.0%	17.9%	50.5%	4.2%	5.3%
職業別								
会社員	346	25.1%	29.8%	23.7%	26.9%	64.2%	39.9%	6.1%
自営業	133	32.3%	25.6%	26.3%	29.3%	61.7%	12.8%	3.8%
農林漁業	17	23.5%	29.4%	5.9%	17.6%	70.6%	23.5%	0.0%
公務員	77	31.2%	36.4%	35.1%	22.1%	83.1%	42.9%	2.6%
学生	19	31.6%	73.7%	21.1%	47.4%	57.9%	47.4%	5.3%
無職	448	29.9%	26.3%	24.3%	22.8%	66.1%	15.8%	4.5%
その他	196	37.8%	32.7%	28.6%	26.0%	75.0%	26.0%	3.6%
地区別								
東部	373	29.2%	29.5%	27.9%	24.4%	65.4%	30.0%	5.9%
西部	139	30.9%	29.5%	31.7%	30.2%	67.6%	22.3%	3.6%
中央	266	31.2%	32.0%	20.3%	27.1%	66.2%	27.4%	6.0%
南部	221	29.9%	27.6%	23.5%	26.7%	69.7%	25.8%	3.2%
北部	243	30.5%	28.0%	25.5%	20.2%	69.5%	21.8%	2.9%

◆ 参考 ◆

○その他の内容

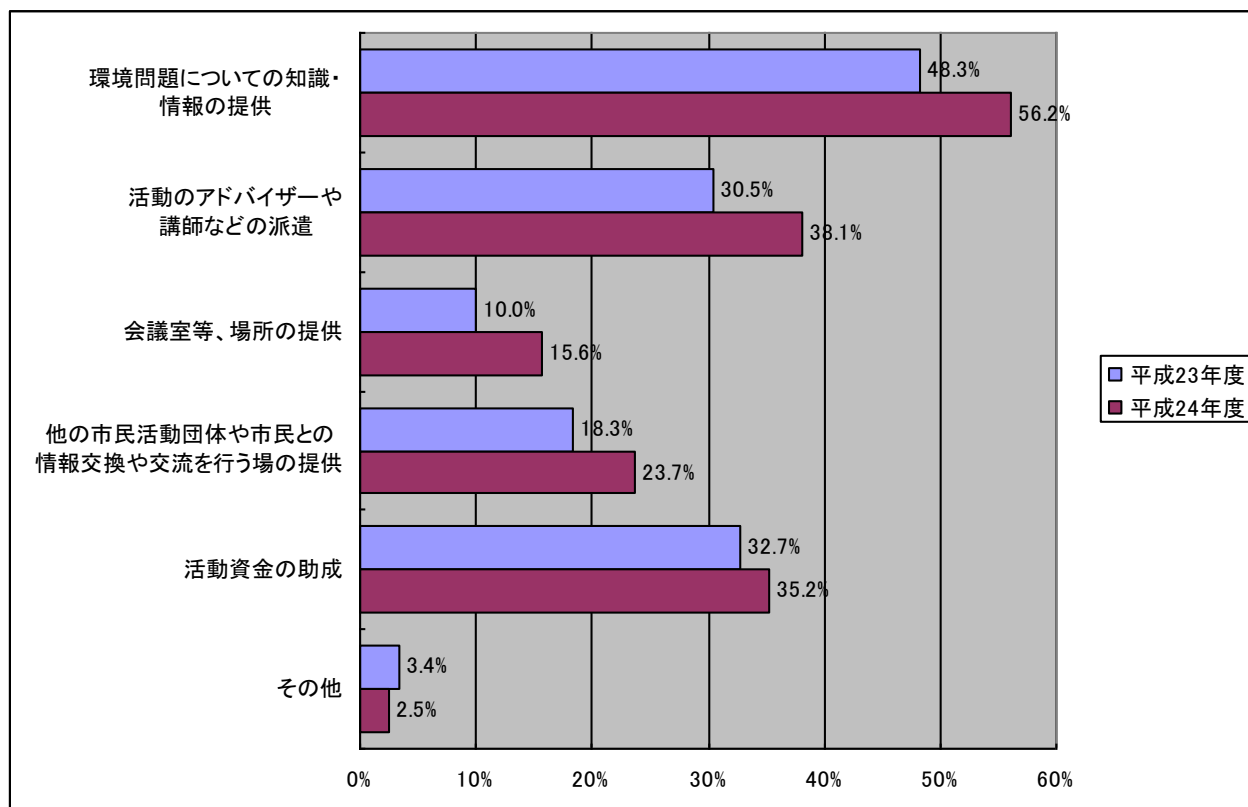
- ・学生を巻き込むこと。子どもが真剣に取り組む姿を見れば共感する大人も多くなるから
- ・各人の道徳観念を育成すること

- ・匿名者の活動も大事。人の見ていないところでの行為がそこはかとなく分かるようにすると良いと思う
- ・自然と人間は共存共学共生していることへの普及
- ・まずは興味・関心を持ってもらう事。くまモン、くりいむしちゅー、コロッケ等県有名人にCMスポットに
でてもら
- ・活動自体が興味深い、面白いこと。そのような活動はダサイ、つまらないというようなイメージを払拭
させるような内容だと参加してみたいと思う
- ・今後私たち市民が活動することによって熊本はこうなりますといったような具体的な例を挙げること
- ・将来の地球汚染で人類に支障が出ることを指導すること
- ・環境問題について、具体的な活動内容を提供すること。環境保全活動による効果の提示
- ・街路樹は原則剪定しない。自転車道の整備を積極的に行う、公共の場に駐車場を設けるのではなく、
緑地を増やす(昔のように「森の都 熊本」と言えるように)など、行政としてこの問題に対する姿勢を市
民に明確にアピールすること
- ・子どもの頃から学校で少しずつ教育していくこと
- ・まずは人と人とのつながりが出来る事
- ・報酬という形でもいいし、成果が目に見えわかるようにすると、興味がわきやすいと思う
- ・近所付き合いの活性化
- ・行く事により何らかのメリットがあること
- ・環境保全が企業化出来る事が先だと思う
- ・動かそうとするのではなく、どうい事をすれば効果的なのか提示して無理の無い程度に大多数の人
にできる事を提示すること
- ・地域の土壌や水質の調査、発表など情報の提供
- ・楽しみながら取り組めること、子どもと一緒にできること
- ・活動に効果があり投じる税金が安くなったら、活動する人達に還元すること
- ・活動しなければペナルティ(罰金 500 円等)徴収すること
- ・日常的に行える気軽さ、システム作り。活動ではなく生活の一部になるような街づくり
- ・土・日のみではなく、平日も参加できること
- ・活動の内容を明確にすること。認知されていない
- ・フェイスブックやSNS等での呼びかけ。若者が主体となって活動ができるような仕組みづくり
- ・ニュースなどで取り上げること
- ・環境問題と節約を結びつけた活動
- ・育児中でも参加できるような支援
- ・環境改善の具体例、目標と実績の推移、比較等の広報周知
- ・何にしても、1 回だけの説明会で終了しないこと。時間と場所が合わない人々がいるため、数回実施
しないといけない
- ・1 人 1 人が環境問題を考えたり行動したりできる心のゆとりを持つこと
- ・生活が豊かになること

問9. 地域で市民活動団体や市民が環境保全活動を行う際、どのような支援が必要だと思いますか。(複数回答可)

【全体結果】

- ・「環境問題についての知識・情報の提供」の割合が 56.2%と最も高く、次いで「活動のアドバイザーや講師などの派遣」(38.1%)、「活動資金の助成」(35.2%)となっている。
- ・「活動のアドバイザーや講師などの派遣」の割合は、前回調査では3位だったが、今回調査では2位に上がっている。



【男女別】

- ・性別による差はあまり見られない。

【年代別】

- ・40歳代では「活動のアドバイザーや講師などの派遣」の割合が 49.2%、「活動資金の助成」の割合が 53.7%と、他の年代と比較して高くなっている。

【職業別】

- ・学生では「他の市民活動団体や市民との情報交換や交流を行う場の提供」の割合が 36.8%と、他の職業と比較して高くなっている。
- ・会社員と公務員では「活動資金の助成」の割合がそれぞれ 43.6%、45.5%と、他の職業と比較して高くなっている。

【地区別】

・地区別による差はあまり見られない。

■回答者の属性別にみた「地域で市民活動団体や市民が環境保全活動を行う際、どのような支援が必要だと思いますか。(複数回答可)」

	合計	供の環 知境 識問 ・題 情に 報つ のい 提て	派ザ活 遣―動 やの 講ア 師ド なバ イの	提会 供議 室等 、 場 所の	の換や他 提や市の 供交民と 流との をの活 行情動 う報団 場交体	活 動 資 金 の 助 成	そ の 他
全体	1,264	56.2%	38.1%	15.6%	23.7%	35.2%	2.5%
性別							
男性	565	56.1%	35.8%	15.2%	22.3%	34.5%	3.2%
女性	675	56.6%	40.1%	16.4%	25.6%	35.7%	2.1%
年代別							
20歳代	109	46.8%	37.6%	21.1%	32.1%	42.2%	4.6%
30歳代	182	59.9%	42.9%	21.4%	23.1%	43.4%	1.1%
40歳代	177	48.0%	49.2%	23.7%	20.3%	53.7%	1.1%
50歳代	216	58.3%	38.9%	16.7%	28.7%	37.5%	2.8%
60歳代	284	57.0%	34.2%	12.3%	25.0%	28.2%	1.8%
70歳代	178	63.5%	33.7%	10.7%	21.3%	21.9%	4.5%
80歳代	95	55.8%	27.4%	3.2%	14.7%	15.8%	4.2%
職業別							
会社員	346	54.3%	41.3%	22.0%	24.6%	43.6%	2.3%
自営業	133	54.9%	35.3%	12.0%	19.5%	30.1%	1.5%
農林漁業	17	47.1%	29.4%	5.9%	5.9%	23.5%	5.9%
公務員	77	39.0%	44.2%	19.5%	20.8%	45.5%	1.3%
学生	19	63.2%	36.8%	5.3%	36.8%	21.1%	0.0%
無職	448	59.2%	33.7%	12.9%	24.3%	28.6%	3.6%
その他	196	60.2%	43.4%	15.3%	26.5%	36.2%	2.0%
地区別							
東部	373	53.6%	38.6%	17.2%	22.5%	33.8%	3.5%
西部	139	54.0%	34.5%	13.7%	25.2%	40.3%	2.2%
中央	266	58.6%	37.2%	18.4%	26.3%	32.0%	3.8%
南部	221	64.3%	39.8%	15.8%	18.6%	36.7%	0.9%
北部	243	52.7%	39.1%	12.3%	28.0%	36.2%	1.6%

◆ 参考 ◆

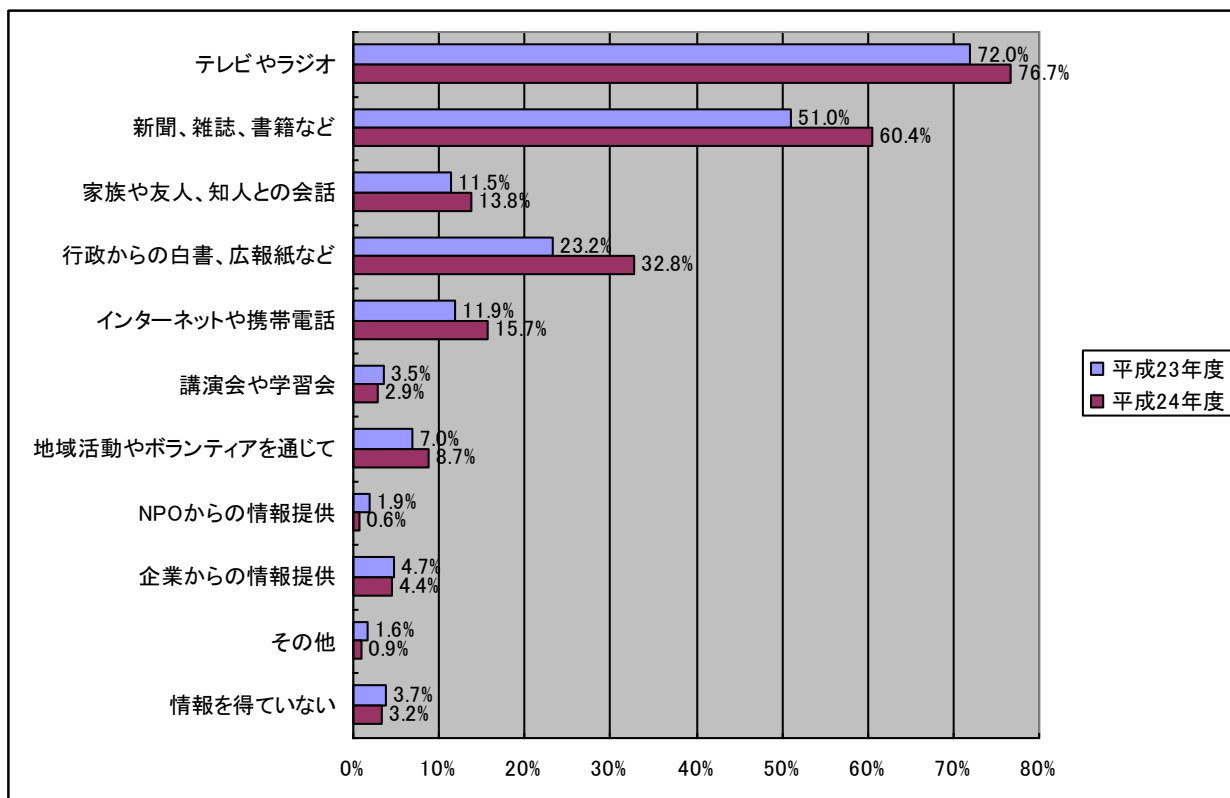
○その他の内容

- ・清掃作業時の手袋やちり袋等の提供
- ・活動内容を市民にPRする場の提供
- ・テレビ・ラジオの活用
- ・お弁当などの配布
- ・学生の清掃活動への強制参加
- ・小額からの寄付による税制面での優遇制度の創設(市民税)
- ・小・中・高の学校教育・課外授業等の推進
- ・リーダー、アドバイザーなどの育成
- ・乳幼児の子育て世代への預かり、参加支援
- ・プロの意見
- ・活動状況の告知

問10. 普段、環境に関する情報を何から得ていますか。(複数回答可)

【全体結果】

- ・「テレビやラジオ」の割合が 76.7%と最も高く、次いで「新聞、雑誌、書籍など」(60.4%)、「行政からの白書、広報紙など」(32.8%)となっている。
- ・前回調査と比較すると、多くの項目で回答割合が高くなっているが、順位に変化は見られない。



【男女別】

- ・男性では「インターネットや携帯電話」の割合が 19.5%と、女性と比較して 6.8%高くなっている。
- ・女性では「テレビやラジオ」の割合が 80.1%、「行政からの白書、広報誌など」の割合が 36.1%と、男性と比較してそれぞれ 7.4%高くなっている。

【年代別】

- ・「インターネットや携帯電話」の割合が 20 歳代では 37.6%、30 歳代では 33.5%と、他の年代と比較して高くなっている。

【職業別】

- ・学生では「インターネットや携帯電話」の割合が 57.9%、「地域活動やボランティアを通じて」の割合が 21.1%と、他の職業と比較して高くなっている。

【地区別】

・西部では「家族や友人、知人との会話」の割合が 20.1%と、他の地区と比較して高くなっている。

■回答者の属性別にみた「普段、環境に関する情報を何から得ていますか。(複数回答可)」

	合計	テレビやラジオ	新聞、雑誌、書籍など	家族や友人、知人との会話	紙行政からの白書、広報など	インターネットや携帯電話	講演会や学習会	地域活動やボランティアを通じて	NPOからの情報提供	企業からの情報提供	その他	情報を得ていない
全体	1,264	76.7%	60.4%	13.8%	32.8%	15.7%	2.9%	8.7%	0.6%	4.4%	0.9%	3.2%
性別												
男性	565	72.7%	59.8%	11.2%	28.7%	19.5%	3.5%	8.8%	0.9%	6.0%	1.2%	4.2%
女性	675	80.1%	61.3%	15.6%	36.1%	12.7%	2.4%	8.6%	0.4%	3.1%	0.7%	2.5%
年代別												
20歳代	109	78.9%	53.2%	11.0%	22.0%	37.6%	0.9%	8.3%	1.8%	2.8%	0.0%	8.3%
30歳代	182	75.8%	52.7%	14.8%	28.6%	33.5%	0.5%	3.8%	0.5%	2.2%	1.1%	3.3%
40歳代	177	80.2%	63.3%	10.2%	40.7%	21.5%	4.0%	11.9%	0.0%	8.5%	1.7%	1.1%
50歳代	216	81.9%	65.7%	9.7%	37.0%	13.4%	4.6%	9.3%	0.9%	6.5%	0.0%	2.8%
60歳代	284	74.3%	60.6%	17.6%	35.2%	7.4%	1.1%	10.2%	0.7%	4.6%	2.1%	3.9%
70歳代	178	72.5%	61.2%	15.2%	30.9%	2.8%	5.1%	9.0%	0.6%	1.7%	0.0%	2.2%
80歳代	95	72.6%	65.3%	13.7%	26.3%	1.1%	5.3%	6.3%	0.0%	3.2%	1.1%	3.2%
職業別												
会社員	346	80.1%	57.5%	12.4%	26.9%	24.6%	2.9%	5.2%	0.3%	10.1%	0.6%	3.5%
自営業	133	69.9%	52.6%	12.8%	30.8%	16.5%	2.3%	12.0%	2.3%	2.3%	1.5%	3.0%
農林漁業	17	70.6%	64.7%	11.8%	41.2%	0.0%	0.0%	11.8%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%
公務員	77	72.7%	68.8%	2.6%	35.1%	26.0%	3.9%	10.4%	0.0%	2.6%	1.3%	1.3%
学生	19	84.2%	63.2%	15.8%	0.0%	57.9%	0.0%	21.1%	5.3%	0.0%	5.3%	0.0%
無職	448	75.2%	60.3%	16.3%	35.5%	6.9%	2.9%	9.4%	0.2%	1.3%	1.1%	3.8%
その他	196	80.1%	67.3%	13.8%	40.3%	13.3%	3.6%	9.2%	1.0%	4.1%	0.5%	3.6%
地区別												
東部	373	76.7%	57.9%	12.1%	28.7%	14.2%	2.4%	7.2%	0.5%	4.6%	1.3%	3.8%
西部	139	74.8%	59.0%	20.1%	34.5%	13.7%	4.3%	7.9%	1.4%	5.8%	0.7%	3.6%
中央	266	74.4%	64.3%	13.2%	32.7%	18.4%	3.4%	8.3%	0.8%	3.8%	1.5%	4.1%
南部	221	78.3%	57.0%	13.1%	32.1%	15.4%	1.8%	10.0%	0.5%	5.0%	0.5%	3.6%
北部	243	79.4%	65.0%	12.8%	38.7%	16.5%	3.3%	10.7%	0.4%	3.7%	0.4%	1.2%

◆ 参考 ◆

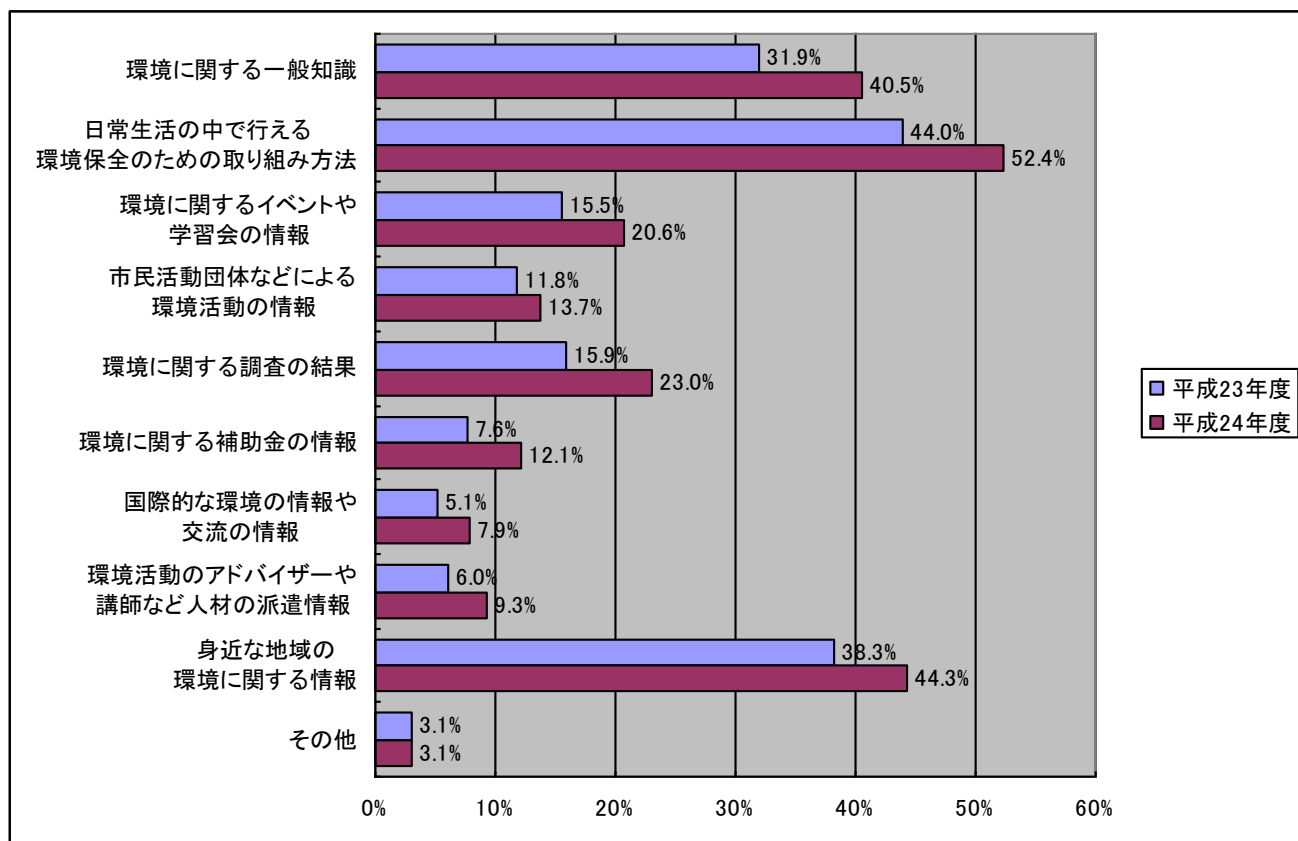
○その他の内容

- ・職場での学習会(自主的なもの)
- ・町内の回覧板
- ・熊日・すぱいす・リビング熊本
- ・学校
- ・身の回りの観察
- ・twitter、Facebook

問11. 環境に関する情報について、今後求めたいもの(不足しているもの)は何ですか。(複数回答可)

【全体結果】

- ・「日常生活の中で行える環境保全のための取り組み方法」の割合が 52.4%と最も高く、次いで「身近な地域の環境に関する情報」(44.3%)、「環境に関する一般知識」(40.5%)となっている。
- ・前回調査と比較すると、すべての項目で回答割合が高くなっているが、順位に変化は見られない。



【男女別】

- ・男性では「市民活動団体などによる環境活動の情報」が 17.0%と、女性と比較して6.0%高くなっている。
- ・女性では「日常生活の中で行える環境保全のための取り組み方法」が 55.7%と、男性と比較して7.4%高くなっている。

【年代別】

- ・年代別による差はあまり見られない。

【職業別】

- ・農林漁業では「環境に関する補助金の情報」が 29.4%と、他の職業と比較して高く

なっている。

- ・公務員では「日常生活の中で行える環境保全のための取り組み方法」が 62.3%と、他の職業と比較して高くなっている。
- ・学生では「環境に関する調査の結果」が 47.4%と、他の職業と比較して高くなっている。

【地区別】

- ・地区別による差はあまり見られない。

■回答者の属性別にみた「環境に関する情報について、今後求めたいもの(不足しているもの)は何ですか。(複数回答可)」

	合計	環境に関する一般知識	日常生活の中で行える環境保全のための取り組み方法	環境に関するイベントや学習会の情報	市民活動団体などによる環境活動の情報	環境に関する調査の結果	環境に関する補助金の情報	国際的な環境の情報や交流の情報	派遣や講師の人材の情報	身近な地域の環境に関する情報	その他
全体	1,264	40.5%	52.4%	20.6%	13.7%	23.0%	12.1%	7.9%	9.3%	44.3%	3.1%
性別											
男性	565	41.9%	48.3%	19.5%	17.0%	25.8%	14.9%	8.5%	9.6%	42.7%	3.4%
女性	675	39.6%	55.7%	21.9%	11.0%	20.6%	9.6%	7.6%	9.0%	46.2%	3.0%
年代別											
20歳代	109	40.4%	47.7%	15.6%	13.8%	33.0%	14.7%	8.3%	3.7%	44.0%	2.8%
30歳代	182	44.0%	58.2%	20.3%	12.1%	27.5%	19.8%	13.2%	9.9%	40.7%	2.7%
40歳代	177	37.9%	54.2%	28.2%	13.0%	25.4%	16.9%	10.7%	15.3%	44.1%	4.0%
50歳代	216	42.6%	53.7%	25.9%	16.2%	23.6%	10.2%	9.7%	10.2%	44.0%	3.7%
60歳代	284	41.9%	54.2%	19.0%	12.7%	21.1%	9.9%	3.9%	8.5%	46.5%	2.8%
70歳代	178	36.0%	50.0%	18.5%	15.7%	17.4%	7.3%	5.6%	9.0%	46.1%	2.8%
80歳代	95	41.1%	36.8%	10.5%	11.6%	13.7%	4.2%	4.2%	4.2%	46.3%	3.2%
職業別											
会社員	346	42.2%	50.6%	24.0%	14.2%	27.2%	16.8%	8.4%	9.2%	39.3%	2.6%
自営業	133	37.6%	45.1%	14.3%	12.8%	16.5%	12.0%	6.0%	7.5%	45.9%	6.0%
農林漁業	17	11.8%	41.2%	17.6%	5.9%	11.8%	29.4%	0.0%	5.9%	52.9%	0.0%
公務員	77	35.1%	62.3%	26.0%	16.9%	23.4%	15.6%	15.6%	14.3%	40.3%	0.0%
学生	19	31.6%	47.4%	21.1%	21.1%	47.4%	10.5%	10.5%	0.0%	52.6%	0.0%
無職	448	40.2%	52.2%	19.0%	13.8%	20.8%	9.2%	6.7%	8.9%	49.1%	2.9%
その他	196	45.4%	57.1%	22.4%	12.2%	23.5%	7.7%	9.2%	10.7%	42.9%	4.6%
地区別											
東部	373	39.7%	49.6%	19.8%	11.8%	23.6%	10.7%	7.8%	9.1%	45.0%	4.0%
西部	139	37.4%	46.0%	23.0%	16.5%	29.5%	15.1%	8.6%	10.8%	48.9%	3.6%
中央	266	39.5%	54.5%	21.1%	12.4%	22.6%	12.0%	9.4%	8.3%	42.1%	4.9%
南部	221	42.5%	54.8%	20.4%	16.7%	20.4%	11.3%	5.0%	13.6%	45.2%	1.4%
北部	243	43.2%	56.0%	21.0%	13.6%	21.4%	12.8%	9.1%	5.8%	43.6%	1.2%

◆ 参考 ◆

○その他の内容

- ・子ども達の中で地区のよかところ情報交換会を開く学びの場があったら、知識がより豊かに広がり守りたいと思う保全の気持ちも少しは養われる。東部の子が南部の川尻ぼ船着き場に出向いたり北部の

子が江津湖に行ったり、など。

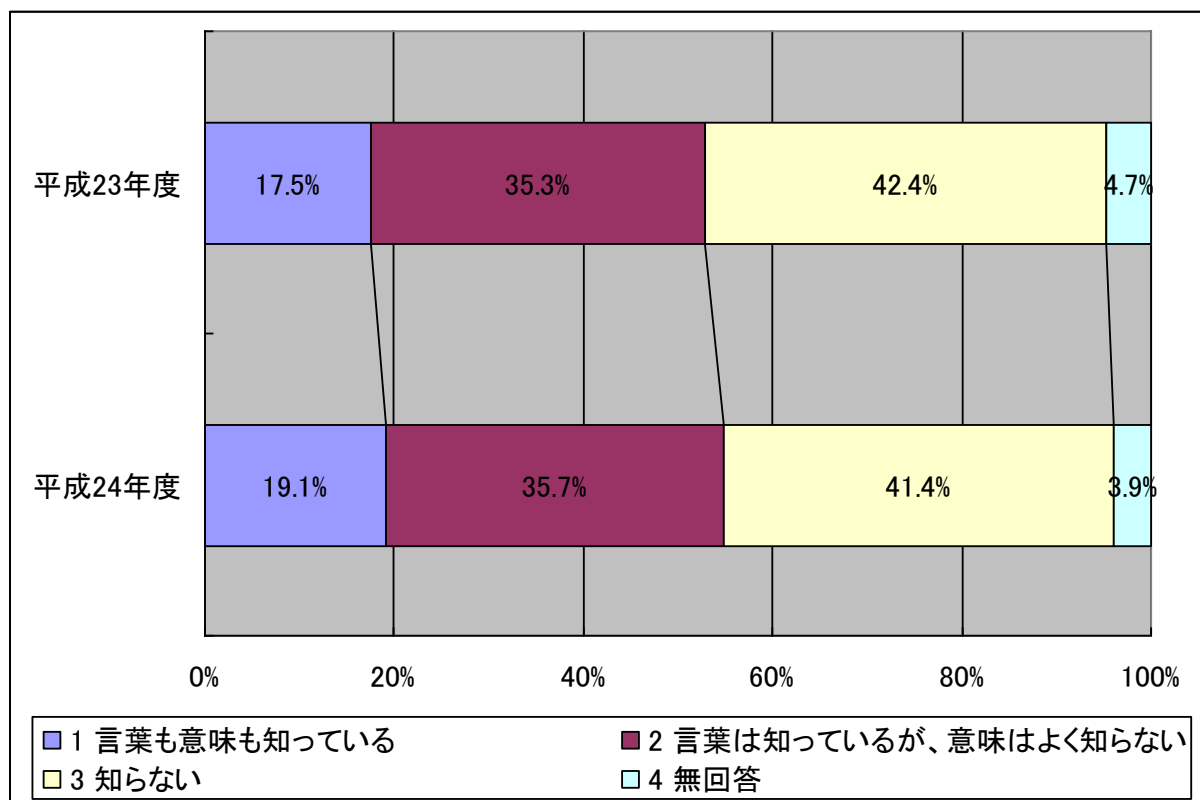
- ・水俣病や川辺川ダム問題など、実際におこった社会問題
- ・海外などの好事例の収集・活用(そのために、海外からの留学生や滞在経験者などから情報収集するなど)
- ・貢献している市民にスポットを当てる
- ・何が環境悪化につながり、何に取り組めばどのような成果が見えるのかなど、具体的な事
- ・嘘、捏造や誤った解釈の報道をなくし、本当に必要な環境活動は何なのかを考えるための正確な材料
- ・各個人が生活上、何を気をつけていれば環境活動の負担が減るか。少人数の負担を増やすのではなく、大人数でごく小さな負担を分けることで、出来る事を知りたい。
- ・玄海・川内原子力発電所事故時の熊本市における影響
- ・地球規模、宇宙規模ではどうなのか等広い視野での情報
- ・本質的な環境についての情報・知識
- ・何が問題で、どうして欲しいのかという情報
- ・個人の活動(リサイクル等)が環境に与える影響。目標がないと、人は動かないと思われる

問12「生物多様性」について

問12. 「生物多様性」について知っていますか。(1 つだけ)

【全体結果】

- ・「知らない」の割合が 41.4%と最も高く、次いで「言葉は知っているが、意味はよく知らない」(35.7%)、「言葉も意味も知っている」(19.1%)となっている。
- ・前回調査と比較すると、「言葉も意味も知っている」は 1.6%上昇している。



【男女別】

- ・「言葉も意味も知っている」の割合は、女性よりも男性のほうが 7.6%高くなっている。

【年代別】

- ・「言葉も意味も知っている」の割合は、20 歳代が 29.4%と最も高く、次いで 70 歳代 (24.2%)、80 歳代 (22.1%)となっている。
- ・30 歳代は「知らない」と回答した割合が 50.0%と最も高くなっている。

【職業別】

- ・「言葉も意味も知っている」の割合は、学生が 47.4%と最も高く、次いで公務員 (26.0%)、会社員 (19.7%)となっている。

【地区別】

・「言葉も意味も知っている」の割合は、中央が 22.6%と最も高く、次いで北部(21.8%)、東部(18.5%)となっている。

■回答者の属性別にみた「生物多様性」について知っていますか。(1つだけ)

	合計	言葉も意味も知っている	言葉は知っているが、意味はよく知らない	知らない	無回答
全体	1,264	19.1%	35.7%	41.4%	3.9%
性別					
男性	565	23.5%	34.0%	38.8%	3.7%
女性	675	15.9%	36.9%	43.7%	3.6%
年代別					
20歳代	109	29.4%	31.2%	38.5%	0.9%
30歳代	182	14.8%	34.1%	50.0%	1.1%
40歳代	177	15.3%	33.3%	49.7%	1.7%
50歳代	216	18.5%	31.0%	47.7%	2.8%
60歳代	284	17.3%	43.0%	35.2%	4.6%
70歳代	178	24.2%	38.2%	31.5%	6.2%
80歳代	95	22.1%	31.6%	36.8%	9.5%
職業別					
会社員	346	19.7%	31.8%	47.4%	1.2%
自営業	133	15.8%	33.8%	45.1%	5.3%
農林漁業	17	11.8%	47.1%	41.2%	0.0%
公務員	77	26.0%	32.5%	37.7%	3.9%
学生	19	47.4%	36.8%	15.8%	0.0%
無職	448	19.2%	37.7%	37.9%	5.1%
その他	196	14.8%	38.8%	42.3%	4.1%
地区別					
東部	373	18.5%	33.8%	44.0%	3.8%
西部	139	15.8%	35.3%	44.6%	4.3%
中央	266	22.6%	36.5%	37.6%	3.4%
南部	221	16.7%	34.8%	44.3%	4.1%
北部	243	21.8%	37.4%	37.9%	2.9%

3. 調査結果総括

(1) ひとつづくりプロジェクト

《結果の分析》

① 成果指標について

・「環境について学ぶ機会が増えてきたと感じますか」については、前回調査と比較すると、若干ではあるが数値が落ちている。

② 環境に関する学習会やイベント等への参加について

・この1年以内で、環境に関する学習会やイベント等に参加した市民の割合は、前回調査と比較すると、8.9%減と大幅に低下している。

・「参加した」と回答したうちの7割以上が、参加したことによって何らかの環境保全活動を実践するようになったと回答しており、環境について学ぶ機会の拡充が、環境行動の実践につながる事が窺える。

・環境に関する学習会やイベントに参加しなかった理由としては「環境に関する学習会やイベントの開催情報がなかったため」が半数近くを占めている。

・「参加した」と回答した中では、「自治会・老人会・PTA等の学習会」が最も多かったが、「環境フェアなどのイベント」が次点につけ、「行政が主催する講座・講演会・セミナー等」が前回調査の5位から3位に上昇するなど、市が主体となって実施しているものにも注目が集まっている。

③ 環境に関する学習会やイベント等へのニーズ

・どのような内容の学習会やイベント等に参加したいかについては「日常生活の中で実践できるエコについて学べるもの」や「身近な地域の環境について学べるもの」など、自らの生活に密着した内容のものが多かった。

・どのような条件が整えば、より学習会やイベント等に参加したいと考えるかについては「気軽に参加できること」や「無料で参加できること」、「自分の都合に合わせて、短時間で参加できること」などが上位を占め、時間的な、あるいは金銭的な負担をかけずに参加できるものを望んでいることが窺える。

④ 市の取り組みについて

・市民の環境保全意識を高めるために必要な市の取り組みとしては、「学校や社会における環境教育の充実」や、「環境に関する広報の強化」、「体験学習など自然に触れる機会の提供」などが特に多かった。

《今後の対策》

・出前講座や体験学習等の、様々なテーマの環境学習メニューの充実を図り、環境学習の機会を拡充する。

・「くまもと低炭素都市づくり」・「熊本市地球温暖化防止活動推進センター」・「くまもとウォーターライフ」などの各種ウェブページの運用や、環境教育ポスターの作成等に

より、情報を集約・整理し、市民が利用しやすい環境学習拠点を整備することにより、環境に関する情報を効果的に市民に提供し、学習会やイベントへの参加を促進する。

- ・地域の特性に応じた環境教育メニューの構築や、地域別の環境情報の収集及び施策の実施等により、市民に身近な地域の環境について考える機会を提供する。
- ・ライフステージ別環境教育カリキュラムの推進や新規講座の構築等を実施し、様々な年代・性別・ライフステージに応じた環境教育の機会を拡充していく。
- ・環境フェアや環境啓発事業などの「体験型」のイベントや学習会を実施し、環境問題に対する関心と環境保全意識の向上を図り、市民の自ら考え行動する力を養成する。

(2) まちづくりプロジェクト

《結果の分析》

① 成果指標について

- ・「環境保全に関わるまちづくりの活動が増えてきたと感じますか」及び「日頃、地域の環境保全活動に参加していますか」については、前回調査と比較すると、若干ではあるが数値が落ちている。
- ・環境保全活動に参加したことはないが、今後してみたいと回答した割合が全体の半数近くを占めており、今後のまちづくりプロジェクトの推進により、市民の環境保全活動への参加が促進されることが期待される。

② 環境保全活動への参加について

- ・現在参加している環境保全活動については、「町内会」や「自治会」、「子ども会」などの団体において、「清掃活動」や「リサイクルや資源回収活動」、「ごみステーションの管理」などの活動が多く、地域に密着した団体で、日常生活に即した活動をしている市民が多いことが窺える。

③ 環境保全活動へのニーズ

- ・今後活動に参加してみたい団体については、「町内会」や「自治会」に加えて、「NPO」も上位に挙げられている。
- ・今後参加してみたい活動の内容については、「現在参加している活動」と同じく「清掃活動」が最も多い一方で、「植樹などの緑化活動」や「地下水の保全活動」などの自然保護活動も、それぞれ全体の3割近くを占めている。
- ・今後も参加したくないと回答した理由としては「時間がないため」が半数以上を占めている。また、より多くの人々がまちづくりとしての環境保全活動に加わるようになる条件として、「日常生活の中で気軽に取り組めること」が回答の半数以上を占めている。
- ・地域で市民活動団体や市民が環境保全活動を行う際必要な支援としては「環境問題についての知識・情報の提供」や「活動のアドバイザーや講師などの派遣」、「活

動資金の助成」が上位を占めている。

④ 環境に関する情報について

- ・普段、環境に関する情報を得る手段としては「テレビやラジオ」や「新聞、雑誌、書籍など」、「行政からの白書、広報紙など」が多かった。
- ・環境に関する情報について今後求めたいもの(不足しているもの)は「日常生活の中で行える環境保全のための取り組み方法」や「身近な地域の環境に関する情報」、「環境に関する一般知識」が多かった。

《今後の対策》

- ・カーボン・オフセットやエコ・アクションポイントのように、日常的な行動が環境にやさしい行動につながる仕組みを推進し、より多くの市民の環境保全活動への参加を促進する。
- ・市民・市民活動団体・事業者・行政の各主体による情報交換と連携の場の形成や、環境ポータルサイト等のデータバンクの作成等により、環境情報の提供を充実させる。
- ・未来のまちづくりのけん引役となるエコキッズリーダーの育成や、環境活動団体への助成金の交付など、地域の環境保全活動を支援する取り組みを強化していく。
- ・環境情報のさらなる効果的な提供に努めるとともに、今回の調査ではまだ利用度が高くなかった既存のポータルサイトの認知度の向上や、行政だけでなく、市民活動団体や事業者など様々な主体が発信している情報を取得できるようなデータバンク等の仕組みを構築する。

4. 參考資料（調查票）

第3次熊本市環境総合計画 重点協働プロジェクトに関する

市民アンケート

■調査ご協力をお願い

日頃から、本市の環境保全のための取り組みにご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

このアンケートは、平成23年3月に策定された「第3次熊本市環境総合計画」の進捗状況を管理し、今後の施策の展開に役立てるために行うものです。

なお、本アンケート調査は、本市の住民基本台帳に登録されている満20歳以上の市民の中から無作為に抽出した3,000人の方々にお送りさせていただいております。

回答内容は全て統計的に処理し、個人が特定されたり、ご迷惑をお掛けしたりすることはございませんので、率直なご意見をお聞かせください。

※第3次熊本市環境総合計画は、熊本市本庁舎の市政情報プラザ及び環境政策課、又は各区役所、各総合出張所及び出張所でご覧になれます。

又は、市のホームページ (<http://www.city.kumamoto.kumamoto.jp/>)でもご確認いただけます。

■アンケートの回答方法について

- ・回答は、封筒の宛名の方がお答えください。(代筆でも結構です。)
- ・回答は、黒の鉛筆又はボールペンでアンケート用紙に記入してください。
- ・アンケート用紙及び返信用封筒には、お名前とご住所の記入は不要です。
- ・アンケート用紙の2ページ目以降を、同封の返信用封筒にて、11月9日(金)までに投函してください。(切手は不要です。)

■お問い合わせ先

熊本市役所 環境局 環境政策課

電話：096-328-2427

FAX：096-359-9945

電子メール：kankyouseisaku@city.kumamoto.lg.jp

担当：白石、橋本

ご回答いただく前にお読みください。

熊本市では、平成23年3月に策定した「第3次熊本市環境総合計画」において重点的に取り組む施策として、「ひとづくり・まちづくりプロジェクト」を掲げています。

「ひとづくりプロジェクト」とは、市民の皆様が環境保全行動を実践するためには、まず環境保全の意識を高めることが重要であるとの考えのもと、様々な年代・性別・ライフステージにおいて、地球環境や地域の環境課題について考える機会を提供し、自発的な環境保全行動につなげていただくための取り組みのことで、さらにはその行動を、家庭や地域など社会全体に広げていくため、人材の育成や活動の場の提供を行っていきたくと考えています。

「まちづくりプロジェクト」とは、これまで環境保全活動に取り組んできたのは、環境意識の高い市民や地域の役員、市民活動団体など、一部の限られた人たちであったこと、また、活動を行いたいと思っても活動の場がなかったり、方法が分からなかったりなどの問題の解決を図ることが必要であるとの考えのもと、より多くの市民の皆様が環境保全活動を活発に行えるような情報の提供を行い、様々な主体の協働体制を促進する取り組みのことで、

そこで、これらのプロジェクトを進めていくための参考とさせていただくため、設問1～5では「ひとづくりプロジェクト」について、設問6～11では「まちづくりプロジェクト」に関することについてお伺いさせていただきます。

〈回答方法〉

*設問の答えとして、あなたご自身のこと、またはあなたのお考えにあてはまる選択肢の番号に丸(O)をつけてください。

*設問番号に枝番がついていないものは、全員がご回答ください。
(例) 問2 この1年以内で、環境に関する学習会やイベント等に参加しましたか。

*設問番号に枝番がついているものは、条件に該当する方だけご回答ください。
(例) 問2-2 問2で「参加した」と答えられた方にお尋ねします。

次のページより、設問が始まります。

I 回答者ご自身や地域の環境保全活動等についてお聞きます。

問1～5「ひとづくりプロジェクト」について

問1. 環境について学ぶ機会（学習会やイベント等）が増えてきたと感じますか。（1つだけ）

- 1 感じる
- 2 やや感じる
- 3 感じない

問2. この1年以内で、環境に関する学習会やイベント等に参加しましたか。（1つだけ）

- 1 参加した
- 2 参加していない

問2-1. 問2で「1 参加した」と答えられた方にお尋ねします。
この1年以内で、どのような、環境に関する学習会やイベント等に参加しましたか。（複数回答可）

- 1 自治会・老人会・PTA等の学習会
- 2 NPOや企業が主催する講座・講演会・セミナー等
- 3 行政が主催する講座・講演会・セミナー等
- 4 学校や職場で行われる勉強会
- 5 環境フェアなどのイベント
- 6 その他（)

問2-2. 問2で「1 参加した」と答えられた方にお尋ねします。
参加したことによって、環境保全のために実践するようになった行動（活動）はありますか。また、あるとしたらどういったことですか。（1つだけ）

- 1 ある（実践している内容について、簡単にご記入ください。）
〔 〕
- 2 ない（実践していない理由について特に何かある場合は記入してください。）
〔 〕

問2-3. 問2で「2 参加していない」と答えられた方にお尋ねします。
参加しなかった理由は何ですか。（複数回答可）

- 1 時間がなかったため
- 2 経済的な負担が増加するため
- 3 学習会やイベントの開催情報がなかったため
- 4 興味がなかったため
- 5 その他（)

問3. 今後、どのような内容の学習会等に参加してみたいと思いますか。（複数回答可）

- 1 日常生活の中で実践できるエコについて学べるもの
- 2 環境問題について基礎的な知識が学べるもの
- 3 省エネルギーや新エネルギーなど、話題になっているテーマについて学べるもの
- 4 身近な地域の環境について学べるもの
- 5 国際的な環境問題について学べるもの
- 6 その他（)

問4. どのような条件が整えば、より環境に関する学習会やイベント等に参加したいと思いますか。（複数回答可）

- 1 自分の都合に合わせて、短時間で参加できる
- 2 小学校や公民館など、身近な場所で開催される
- 3 無料で参加できる
- 4 気軽に参加することができる
- 5 専門的な知識を身につけることができる
- 6 友人や家族と一緒に参加することができる
- 7 その他（)

問5. 市民の環境保全意識を高めるために、市としてどのような取り組みを行えば効果的だと思いますか。(複数回答可)

- 1 学習会や講演会などの開催
- 2 学校や社会における環境教育の充実
- 3 環境活動の指導者や地域リーダーの育成
- 4 環境に関する情報を入手できる場の提供
- 5 体験学習など自然に触れる機会の提供
- 6 環境に関する広報などの強化
- 7 環境保全活動に貢献した市民や団体の表彰
- 8 身近な地域の環境保全について考える機会の提供
- 9 その他 ()

問6～11「まちづくりプロジェクト」について

問6. 環境保全に関わるまちづくりの活動が増えてきたと感じますか。(1つだけ) ※例：緑化活動、清掃活動、環境学習に関する活動など

- 1 感じる
- 2 やや感じる
- 3 感じない

問7. 日頃、地域の環境保全活動に参加していますか。(1つだけ)

- 1 積極的に参加している
- 2 できる限り参加している
- 3 参加したことはないが、今後してみたい
- 4 参加したことはないし、今後もしたいと思わない

問7-1. 問7で「1 積極的に参加している」又は「2 できる限り参加している」と答えられた方にお尋ねします。

どのような団体の活動に参加していますか。(複数回答可)

- 1 自治会
- 2 町内会
- 3 PTA
- 4 NPO
- 5 老人会
- 6 婦人会
- 7 子ども会
- 8 自分たちで立ち上げた活動グループ
- 9 その他 ()

問7-2. 問7で「1 積極的に参加している」又は「2 できる限り参加している」と答えられた方にお尋ねします。

現在、地域においてどのような環境保全活動に参加していますか。(複数回答可)

- 1 自然林や野生生物の自然保護活動
- 2 自然観察会の開催
- 3 植樹などの緑化活動
- 4 森林保全活動
- 5 地下水の保全活動
- 6 河川環境保全活動
- 7 清掃活動
- 8 ごみステーションの管理
- 9 リサイクルや資源回収活動
- 10 歴史的文化遺産の保全活動
- 11 環境問題に関する講演会・勉強会の開催
- 12 環境保全のための寄付
- 13 その他 ()

問7-3. 問7で「3 参加したことはないが、今後してみたい」と答えられた方にお尋ねします。

どのような団体の活動に参加してみたいですか。(複数回答可)

- 1 自治会
- 2 町内会
- 3 PTA
- 4 NPO
- 5 老人会
- 6 婦人会
- 7 子ども会
- 8 自分たちで立ち上げた活動グループ
- 9 その他 ()

問7-4. 問7で「3 参加したことはないが、今後してみたい」と答えられた方にお尋ねします。

今後、どのような環境保全活動に参加してみたいですか。(複数回答可)

- 1 自然林や野生生物の自然保護活動
- 2 自然観察会の開催
- 3 植樹などの緑化活動
- 4 森林保全活動
- 5 地下水の保全活動
- 6 河川環境保全活動
- 7 清掃活動
- 8 ごみステーションの管理
- 9 リサイクルや資源回収活動
- 10 歴史的文化遺産の保全活動
- 11 環境問題に関する講演会・勉強会の開催
- 12 環境保全のための寄付
- 13 その他 ()

問7-5. 問7で「4 参加したことはないし、今後もしたいと思わない」と答えられた方にお尋ねします。

参加したいと思わない理由は何ですか。(複数回答可)

- 1 時間がないため
- 2 興味がないため
- 3 メンバーが固定されていて新たに参加しづらいため
- 4 活動の効果があると思わないため
- 5 その他 ()

問8. どのような条件が整えば、より多くの人まちづくりとしての環境保全活動に関わるようになると思いますか。(複数回答可)

- 1 環境問題についての知識・情報の普及がはかれること
- 2 環境問題を実際に感じられること(地域の川が昔より汚くなった、など)
- 3 周りを活動に巻き込んでいく中心人物がいること
- 4 実際に活動を行っている人たちの活動内容・成果などが分かること
- 5 日常生活の中で気軽に取り組めること
- 6 付加価値(エコポイント等)があること
- 7 その他 ()

問9. 地域で市民活動団体や市民が環境保全活動を行う際、どのような支援が必要だと思いますか。(複数回答可)

- 1 環境問題についての知識・情報の提供
- 2 活動のアドバイザーや講師などの派遣
- 3 会議室等、場所の提供
- 4 他の市民活動団体や市民との情報交換や交流を行う場の提供
- 5 活動資金の助成
- 6 その他 ()

問10. 普段、環境に関する情報を何から得ていますか。(複数回答可)

- 1 テレビやラジオ
- 2 新聞、雑誌、書籍など
- 3 家族や友人、知人との会話
- 4 行政からの白書、広報紙など
- 5 インターネットや携帯電話
- 6 講演会や学習会
- 7 地域活動やボランティアを通じて
- 8 NPOからの情報提供
- 9 企業からの情報提供
- 10 その他 ()
- 11 情報を得ていない

問11. 環境に関する情報について、今後求めたいもの(不足しているもの)は何ですか。(複数回答可)

- 1 環境に関する一般知識
- 2 日常生活の中で行える環境保全のための取り組み方法
- 3 環境に関するイベントや学習会の情報
- 4 市民活動団体などによる環境活動の情報
- 5 環境に関する調査の結果
- 6 環境に関する補助金の情報
- 7 国際的な環境の情報や交流の情報
- 8 環境活動のアドバイザーや講師など人材の派遣情報
- 9 身近な地域の環境に関する情報
- 10 その他 ()

問12「生物多様性」について

近年、生物多様性に対する関心が国際的に高まっており、2010年には「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」が名古屋で開催されました。第3次熊本市環境総合計画においても、目標のひとつとして「人と生きものをつながりについて学び、まもる」ことを掲げており、生物多様性についての知識の啓発や、生物多様性をまもるための自然環境の保全などの取り組みを行っていくこととしております。そこで、これらの取り組みの進捗状況を計るための指標とするため、次の設問にお答えください。

問12. 「生物多様性」について知っていますか。（1つだけ）

- 1 言葉も意味も知っている
2 言葉は知っているが、意味はよく知らない
3 知らない

61 ※生物多様性とは・・・生物にはいろいろな種がいて（種の多様性）、それらの種内にはいろいろな個性を持った個体がいること（種内の多様性）、さらには、いろいろな生活環境があること（生態系の多様性）を言います。これらの多様性は、私たち人間にも食糧や医療品、または文化的な価値など多くの恵みをもたらしています。また、多様な生物が存在することで自然界はバランスを保っています。しかし近年、地球温暖化や外来生物の持ち込みなどによって、生物多様性は危機にさらされています。この生物多様性を保全するために、様々な取り組みが世界中で行われています。熊本市においても、生物多様性についての知識の啓発や、水辺環境や緑地の保全など、自然と共生する豊かなまちづくりに取り組んでいます。

II 回答者ご自身についてお聞きします。

1. 性別

1 男 2 女

2. 年齢

1 20歳代 2 30歳代
3 40歳代 4 50歳代
5 60歳代 6 70歳代
7 80歳代

3. 職業

1 会社員
2 自営業
3 農林漁業
4 公務員
5 学生
6 無職
7 その他（ ）

4. お住まいの地区（回答欄に○をつけてください。）

Table with 2 columns: 回答欄, 該当地区(小学校区域). Rows 1-5 listing districts like 東部, 西部, 中央, 南部, 北部.

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。